

第2期

三原村地域福祉計画

三原村地域福祉活動計画



平成29年3月

三原村

三原村社会福祉協議会

目次

はじめに

第1章 計画の策定にあたって	2
1. 計画策定の背景	3
2. 計画の位置づけ	4
3. 計画策定の期間	5
4. 策定の経過	5
第2章 現状と課題	6
1. 三原村の現状と課題	7
2. 聞き取り調査の結果	15
3. アンケート調査の結果	17
第3章 計画の基本理念と目標	22
1. 計画の基本理念と重点目標	23
2. 計画の体制	25
第4章 具体的な取り組み	26
重点目標1 支え合いのしくみづくり	27
重点目標2 住みたい・住みやすい環境づくり	33
重点目標3 安心・安全な地域づくり	37
第5章 各地区の現状と課題	44
1. 各地区で取り組みを進めるために	45
2. 各地区的データ	46
3. 各地区的現状と課題	47
第6章 計画の推進体制	76
1. それぞれの役割	77
2. 計画の推進体制	78
資料編	80

はじめに

地域社会を取り巻く環境は、少子高齢化や核家族化の進行により、大きな改革の時代を迎えております。本村では、地域での様々な福祉課題が生じている背景から、福祉サービスの充実はもちろんのこと、地域での支え合い、助け合いなど「地域」を中心とする新たな取り組みを実施するため、平成24年3月に『あつたかい きずなを つなぐ 三原村』を基本理念とした「三原村地域福祉計画・三原村地域活動計画」を策定しました。

計画の策定から5年間、住民・事業所・社会福祉協議会・行政がそれぞれの役割を担い、互いに連携しながら、障害のある人やない人、子どもから高齢者まで、地域でお互いを支え合いながら自立し、社会参加ができるよう、計画を推進してまいりました。しかし、少子高齢化がさらに進んでいることに加え、地域でのつながりの希薄化や担い手の不足などがあり、また、全国的にも社会問題となっている、地域での孤立や貧困なども多くなってきており、本村を取り巻く環境は依然として、厳しいものとなっております。

近年は、東日本大震災や熊本地震など、大規模な自然災害で尊い命が奪われ、また、台風など頻発する災害においても、家屋や農地だけでなく、地域住民の方にも多くの被害が出てきます。しかし、そのような状況下においても、お互いが励まし、助け合うことが未来を切り開き、復興へとつながっており、改めて住民同士の支え合いの必要性が認識されました。

このような中で、平成29年度が初年度となる第2期三原村地域福祉計画では、第1期計画を引き継ぎ、支え合いのしくみづくり、住みやすい環境づくり、安心できる地域づくりに重点を置き、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすための村づくりを進めてまいります。

結びにあたり、本計画の策定にご尽力いただきました三原村地域福祉計画策定委員会及び同策定委員会事務局会の委員の皆様をはじめ、貴重な意見や提言をいただきました村民の皆様に心よりお礼申し上げます。

平成29年3月

三原村長 田野 正利

はじめに

平成24年に策定された三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画において、社会福祉協議会では、地域住民同士のつながり・支え合いを確立するために座談会やマップづくり等を通して、お互いを知ることから活動を開始し、各地域の事は地域住民同士でという気持ちが芽生えてきた様な手応えを感じています。しかし、本村の現状は少子高齢化の加速により、高齢者人口増加に反し人口は減少の一途です。必然的に高齢者の孤立・地域のつながりの希薄など公的な福祉サービスだけでは対応できない生活課題は山積しており、解決に至っていないのが現実です。

この度、第1期三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画の進捗状況と評価を行った経過や、藤村の現状などにより三原村と一緒に「住民主体を視点」とし、第2期三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画を策定しました。この計画の取り組みにおける最重点は地域社会の充実です。地域社会とは「ワーク・ライフバランス（仕事と生活の調和）」を実現する場のことです。

誰もが安心して暮らせる“あったかい村”を目標に取り組んでいくには、住民一人ひとりが、地域で支援を求めている者に気づき、住民相互で支援活動を行う等、地域住民の繋がりと支え合う体制を実現しなければなりません。

社会福祉協議会では、行政はもとより、各種関係機関・諸団体と連携を図りながら、地域住民との関わりを密にし、お互いに支え合う地域福祉を推進実現するように取り組んで参ります。

第2期三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画は、基本構想はそのまま引き継ぎ、実施目標や、新たなニーズに対応するための実施目標を設定しながら取り組む予定としています。

終わりに、第2期三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画策定にあたり、ご尽力を賜りました策定委員会の各委員並びに各種関係機関の皆様方に対し、心より敬意と感謝を申し上げます。

平成29年3月

社会福祉法人
三原村社会福祉協議会
会長 大塚 準

第 1 章

計画の策定にあたって

1. 計画策定の背景

平成 12 年に施行された社会福祉法において、社会福祉の基本理念のひとつとして、「地域福祉の推進」が掲げられ、それまでの高齢者、障害者、児童といった特定の人に対する「社会福祉」から、地域が抱える様々な問題を地域の住民がお互いに支え合い、助け合うことで解決していくことを目指す「地域福祉」を進めることができて呼びかけられました。

高知県においても、平成 23 年 3 月に「高知型福祉の実現」を目指し、第1期高知県地域福祉支援計画を策定しており、平成 28 年 3 月には日本一の健康長寿構想と合せ、第1期計画から引き続き第2期高知県地域福祉支援計画を策定しています。

本村においては、平成 24 年 3 月に『あったかいきずなをつなぐ三原村』を基本理念とした三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画を策定しました。

しかし、本村を取り巻く状況は一貫して少子高齢化の傾向にあり、地域のつながり・世代間の交流の希薄化や、伝統を引き継ぐ人材不足等により、地域での活動も少なくなっています。さらに、生活困窮者、独居高齢者、要介護者など社会的弱者も増加しており、地域でのつながりや、お互いが支え合う仕組みづくりが求められています。

このような状況を踏まえ、平成 29 年度を初年度として前計画を引き継ぐ、「第2期三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画」を策定しました。

社会福祉法

第107条（市町村地域福祉計画）

市町村は、地方自治法第2条第4項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という）を策定し、又は変更しようとするときはあらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を経営するものその他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

1. 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
2. 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
3. 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

第109条（市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会）

市町村社会福祉協議会は、一又は同一都道府県内の2以上の市町村の区域内において次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であって、その区域における社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、（中略）市及び町村にあってはその区域内における社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が参加するものとする。

1. 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
2. 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
3. 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
4. 前3号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

2. 計画策定の位置づけ

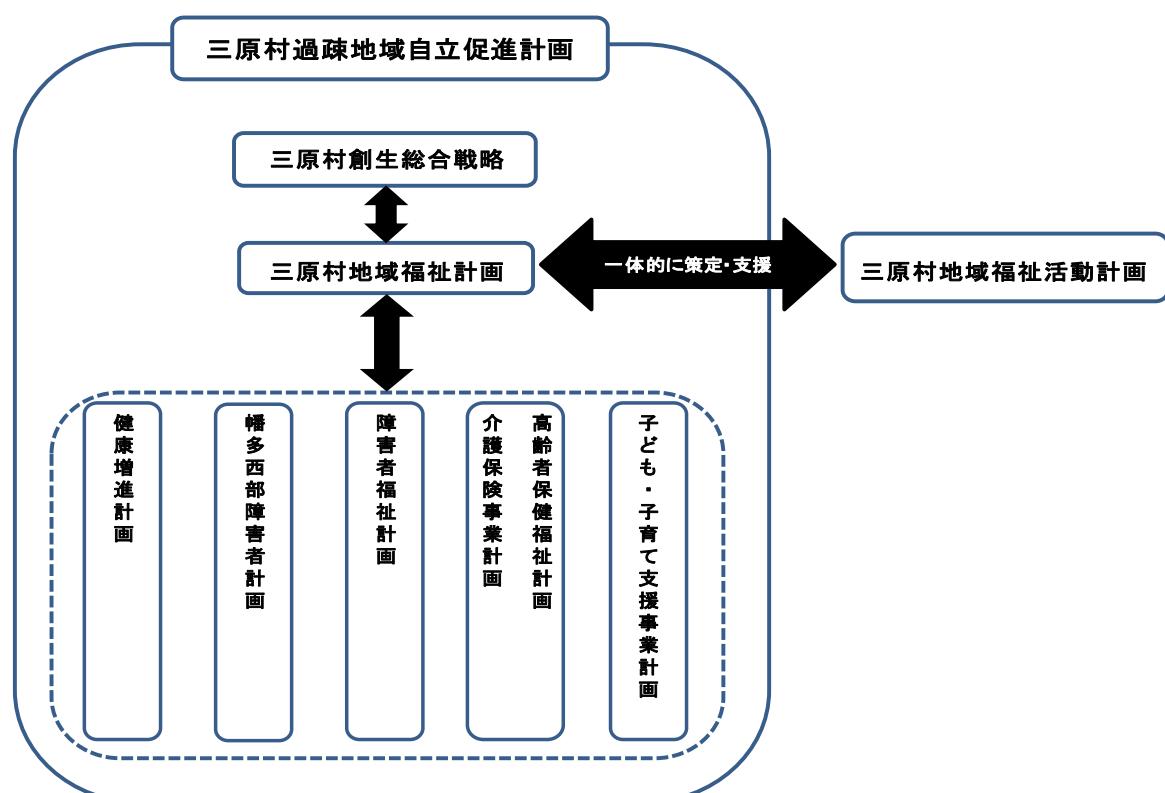
地域福祉は、地域の一部の人たちが限られた人に対して行うものではなく、住民一人ひとりがそれぞれの生き方を尊重しながら、誰もが対等な関係で、住みなれた地域で安心、安全、快適に暮らし続けることを目標としています。

本計画は、社会福祉法に基づく「三原村地域福祉計画」と「三原村地域福祉活動計画」を一体的に策定しています。

地域福祉計画は、高齢者、障害者など支援を必要としている住民を地域全体で支え、誰もが住み慣れた地域で、安心してその人らしい自立した生活を送れるような仕組みを、行政と地域住民が共同でつくるものです。

また、地域福祉活動計画は、この地域福祉計画の基本的な考え方や理念などを基に、よりきめ細やかな地域福祉の推進が図れるよう、住民との協働による支援の仕組みづくりなど、具体的な取り組みを示したもので、社会福祉協議会が策定する計画です。

本村では、高齢者、障害者、児童といった各分野の福祉施策は、既に策定されている「三原村高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」、「三原村障害者福祉計画」といった個別計画を横断的につなげ、地域福祉の理念を定め、具体的な取り組みの方針を表します。



3. 計画策定の期間

計画の期間は、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間としますが、社会情勢の変化や他の関連計画の改定等により、本計画の見直しの必要性が生じた場合には、適宜見直すこととします。

4. 策定の経過

計画の策定にあたり、住民のニーズを把握し、それらを計画に反映することが必要であるためアンケート調査等を実施し、行政の地域福祉担当、社会福祉協議会、各地域の代表者などによって組織された「三原村地域福祉計画策定委員会」の協議によって、住民主体を視点として策定しています。



☆策定委員会の様子

第 2 章

現状と課題

1. 三原村の現状

(1) 人口の推移

本村の人口は、平成 27 年の国勢調査によると、1,574 人となっており、5 年前の平成 22 年と比べると 107 人の減少となっています。年齢構成でみると、0~14 歳までの年少人口は 145 人で 17 人減少、15~64 歳までの生産年齢人口は 716 人で 110 人減少と、この 5 年間で生産年齢人口は特に大幅な減少となっています。一方、65 歳以上の高齢者人口は 713 人で、20 人の増加となっており、総人口の 45.3% を占めています。

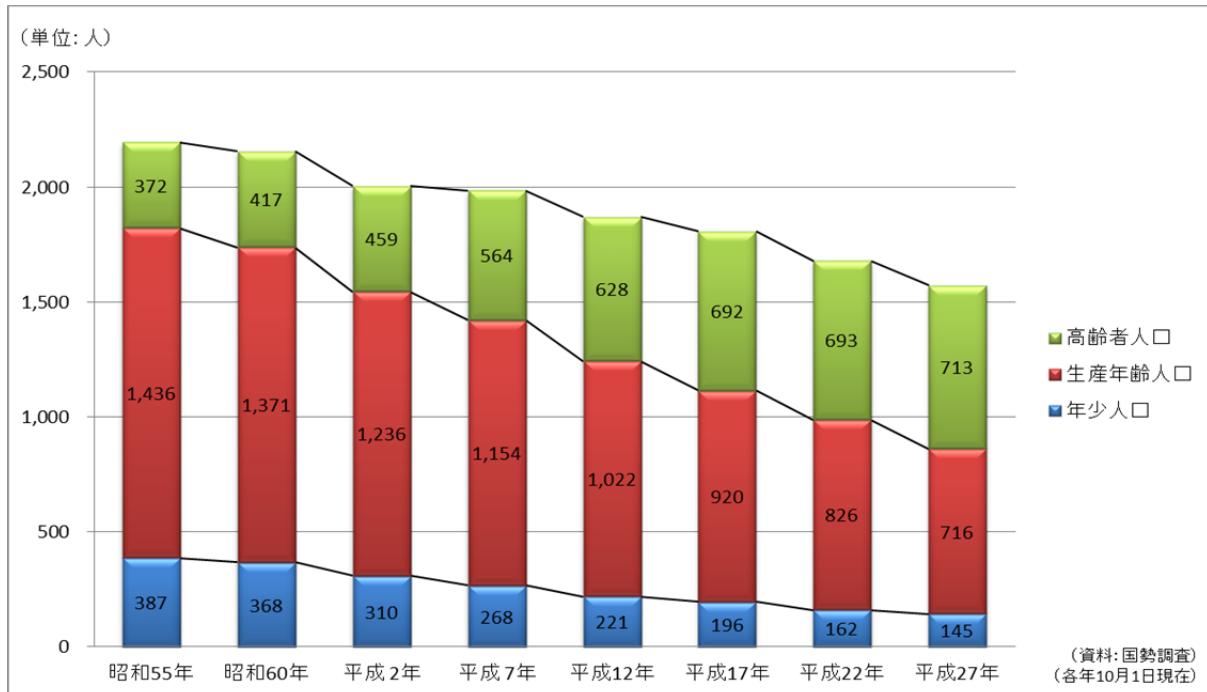
(単位：人)

	昭和55年	昭和60年	平成 2年	平成 7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総人口	2,195	2,156	2,005	1,986	1,871	1,808	1,681	1,574
男	1,068	1,045	953	963	904	855	801	749
女	1,127	1,111	1,052	1,023	967	953	880	825
年少人口 (0歳~14歳)	387	368	310	268	221	196	162	145
割合	17.6	17.1	15.5	13.5	11.8	10.8	9.6	9.2
生産年齢人口 (15歳~64歳)	1,436	1,371	1,236	1,154	1,022	920	826	716
割合	65.4	63.6	61.6	58.1	54.6	50.9	49.2	45.5
高齢者人口 (65歳以上)	372	417	459	564	628	692	693	713
割合	16.9	19.3	22.9	28.4	33.6	38.3	41.2	45.3

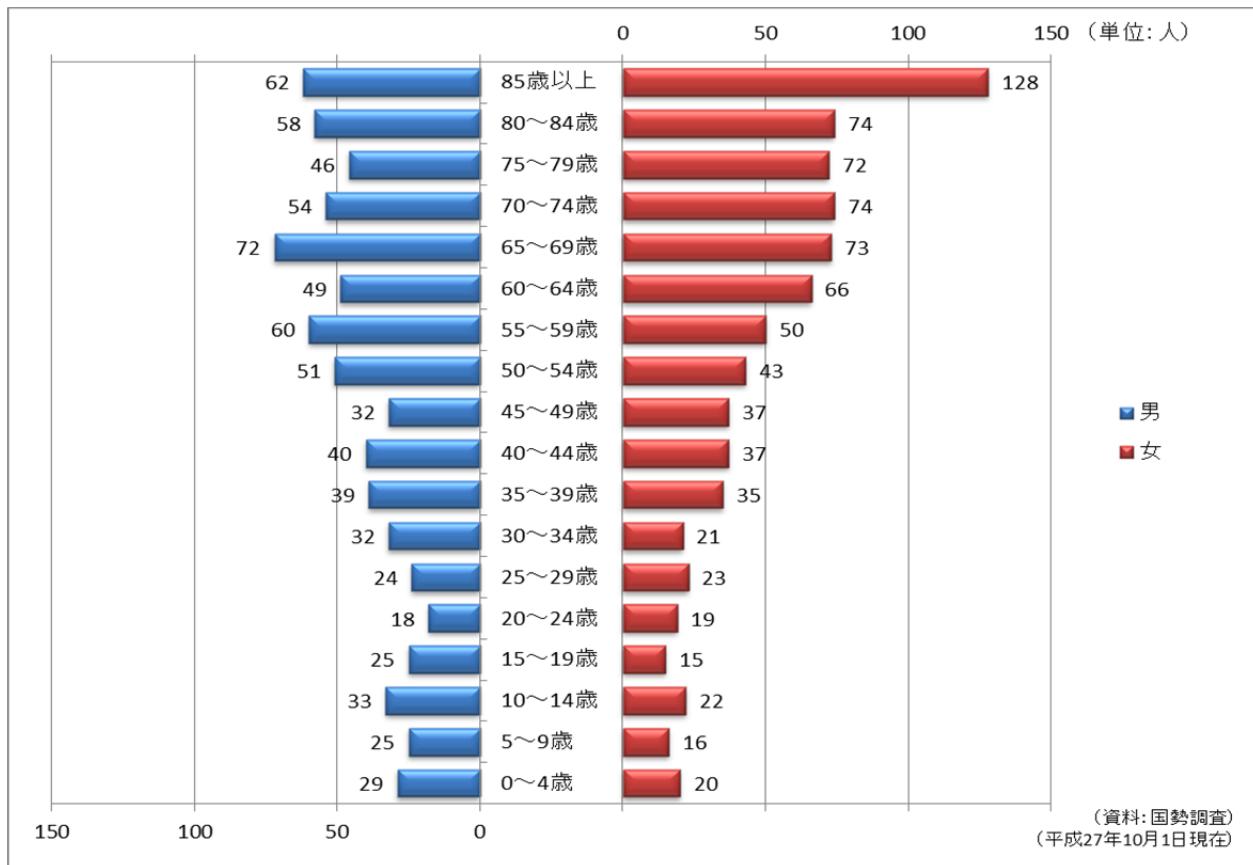
(資料：国勢調査)

(各年10月1日現在)

■人口3区分の推移



■人口ピラミッド



■ 世帯の推移

本村の世帯は、平成27年の国勢調査では、703世帯で、5年間で42世帯減少となっており、昭和55年から平成22年まではほぼ横ばいでいたが、大幅な減少となっています。一方で、高齢者世帯・単身高齢者世帯は増加しており、特に高齢者単身世帯は18世帯増加と、今後も増加が続くものと考えられます。

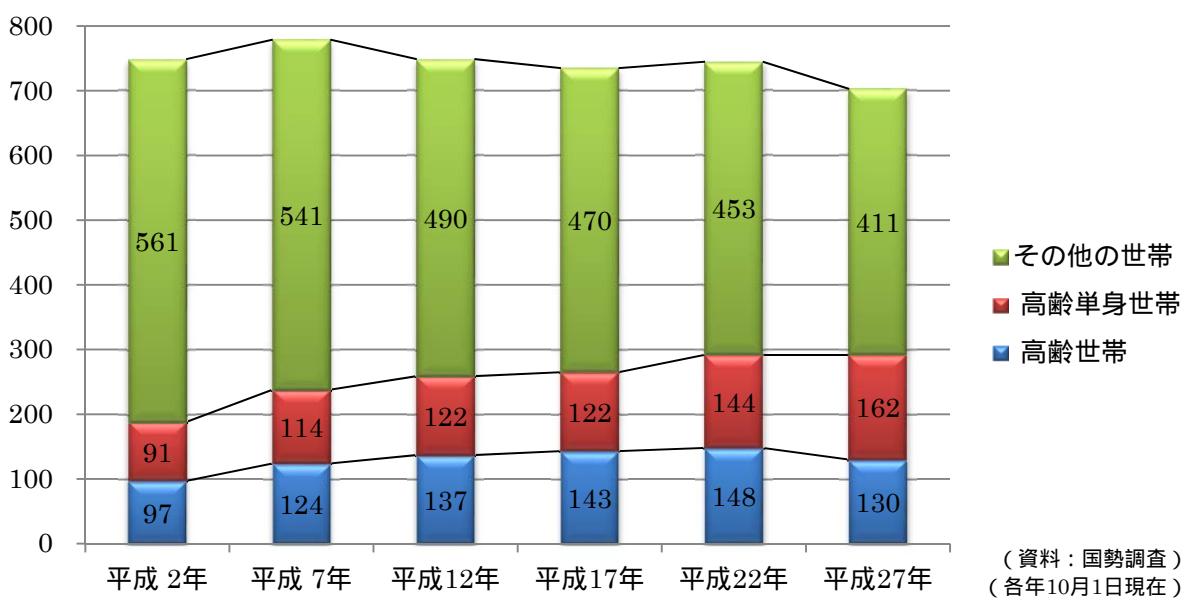
(単位：世帯)

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総世帯数	757	751	749	779	749	735	745	703
高齢世帯	—	—	97	124	137	143	148	130
高齢単身世帯	—	—	91	114	122	122	144	162
その他の世帯	—	—	561	541	490	470	453	411

(資料:国勢調査)

(各年10月1日現在)

(単位：世帯)



(2) 子育て家庭の状況

■ 出生数の推移

平成27年度の出生数は5人であり、平成24年度と比較すると半数になっています。

(単位:人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
人 数	8	10	10	7	7	5	6

(資料:住民基本台帳)

(各年3月末現在 平成28年度のみ見込含む)

■ 保育園児数・小学校児童数・中学校生徒数の推移

本村における平成28年5月1日現在の保育園児数は44人、小学校児童数は57人、中学校生徒数は29人で合計130人となり、平成18年度(172人)からの推移をみると各生徒数ともに減少傾向となっており、全体では25人も減少していますが、平成23年度からの5年間で見るとほぼ横ばいとなっております。しかし、将来的には複式学級になるなど、さらなる生徒数の減少が予想されます。

保育園園児数(広域入所含む)

(単位:人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
全園児数	41	28	25	26	29	38	44

小学校児童数の推移

(単位:人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
全児童数	63	68	74	67	65	56	57

中学校生徒数の推移

(単位:人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
全生徒数	38	38	27	30	32	35	29

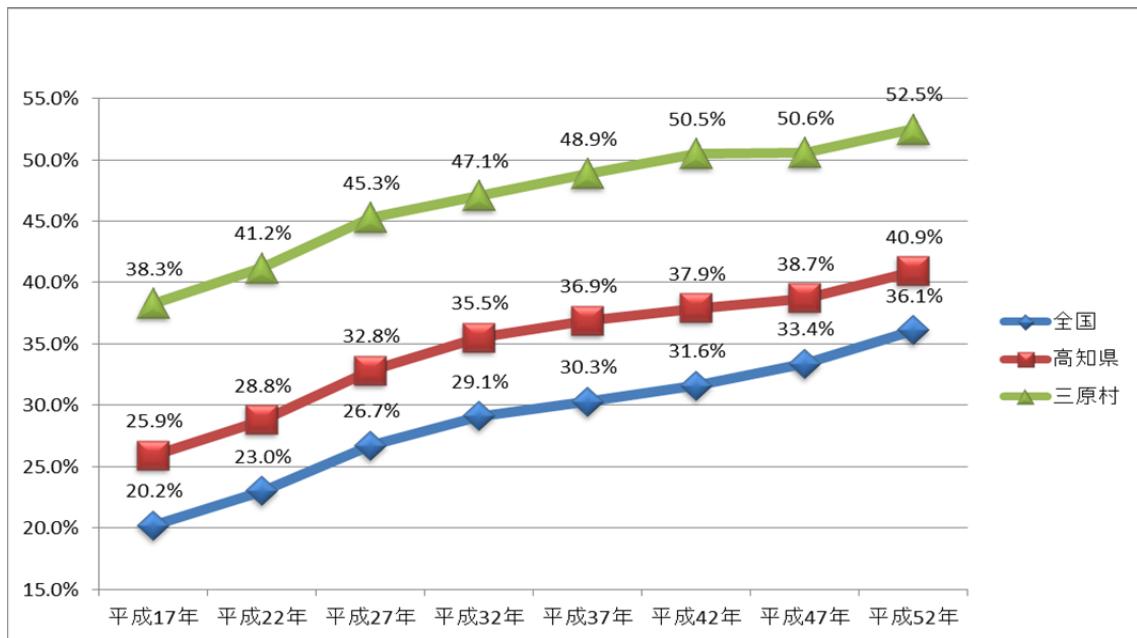
(資料:学校基本調査 他)

(各年5月1日現在)

(3) 高齢者の状況

■高齢化率の推移

本村の高齢者の占める割合は、平成17年には、38.3%でしたが、平成27年には、45.3%となっており、今後も高齢化率は上昇し、15年後の平成42年には50.5%で人口の約2人に1人は65歳以上になると推計されます。



(資料：国立社会保障・人口問題研究所)

■ 要介護度別認定者数

介護保険制度は、法施行後17年を経過しました。これまでの要介護度別認定者はほぼ横ばいとなっていますが、全体でみると法施行10年目の平成22年に比べ43人増加となりました。

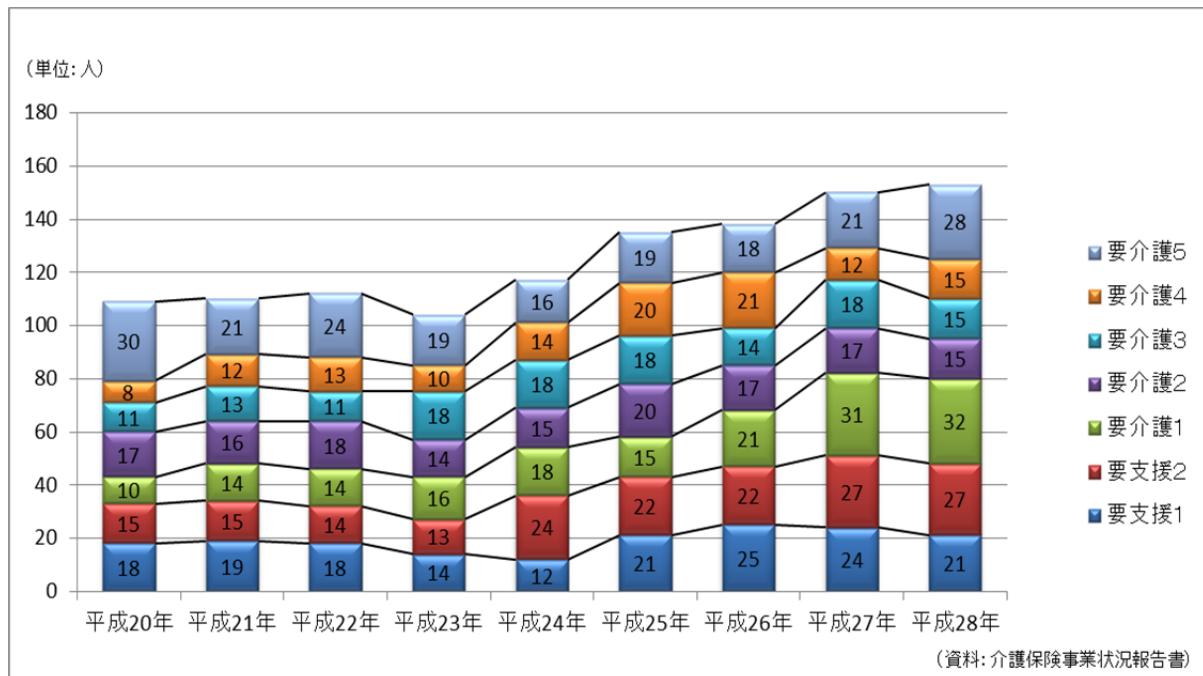
平成22年度では15.6%が要介護認定者で高齢者の約6.4人に1人が要介護認定者だったのに対し、平成27年度には20.8%が要介護認定者であり、高齢者の約5人に1人が要介護認定者となっており、年々、認定者数は増加しています。

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計	第1号 被保険者 (65歳以上)
平成20年	18	15	10	17	11	8	30	109	106
平成21年	19	15	14	16	13	12	21	110	106
平成22年	18	14	14	18	11	13	24	112	108
平成23年	14	13	16	14	18	10	19	104	101
平成24年	12	24	18	15	18	14	16	117	112
平成25年	21	22	15	20	18	20	19	135	130
平成26年	25	22	21	17	14	21	18	138	135
平成27年	24	27	31	17	18	12	21	150	148
平成28年	21	27	32	15	15	15	28	153	151

(資料：介護保険事業状況報告書)

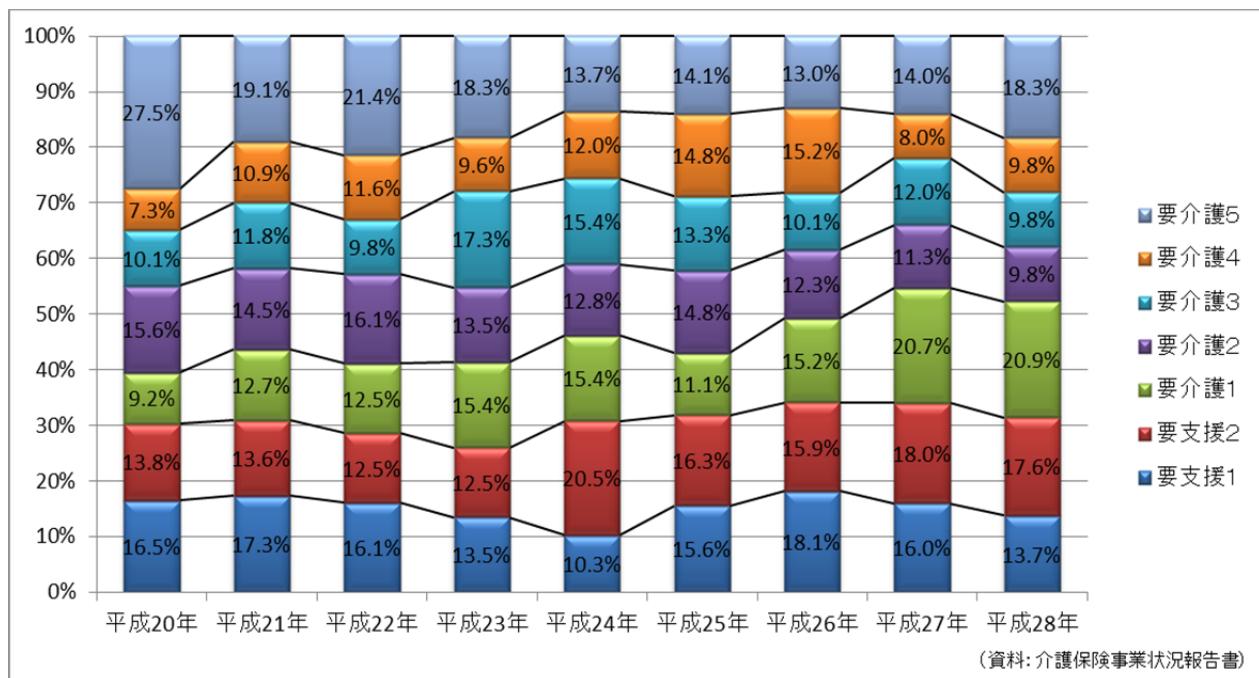
(各年12月末現在)

■ 介護保険認定者数の推移



■ 介護度別割合

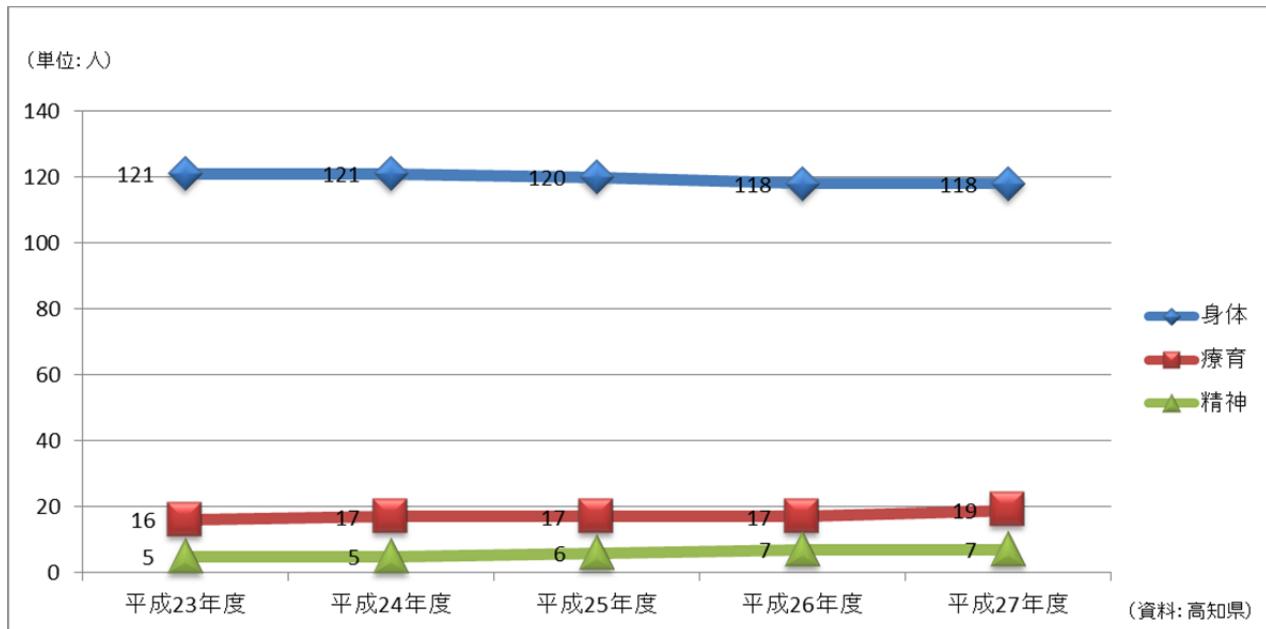
各年度介護度別割合に直すと以下のようにになります。認定者数こそ増加していますが、各介護度の割合に大きな変動はなく、ほぼ横ばいであると言えます。



(5) 障害者手帳所持者

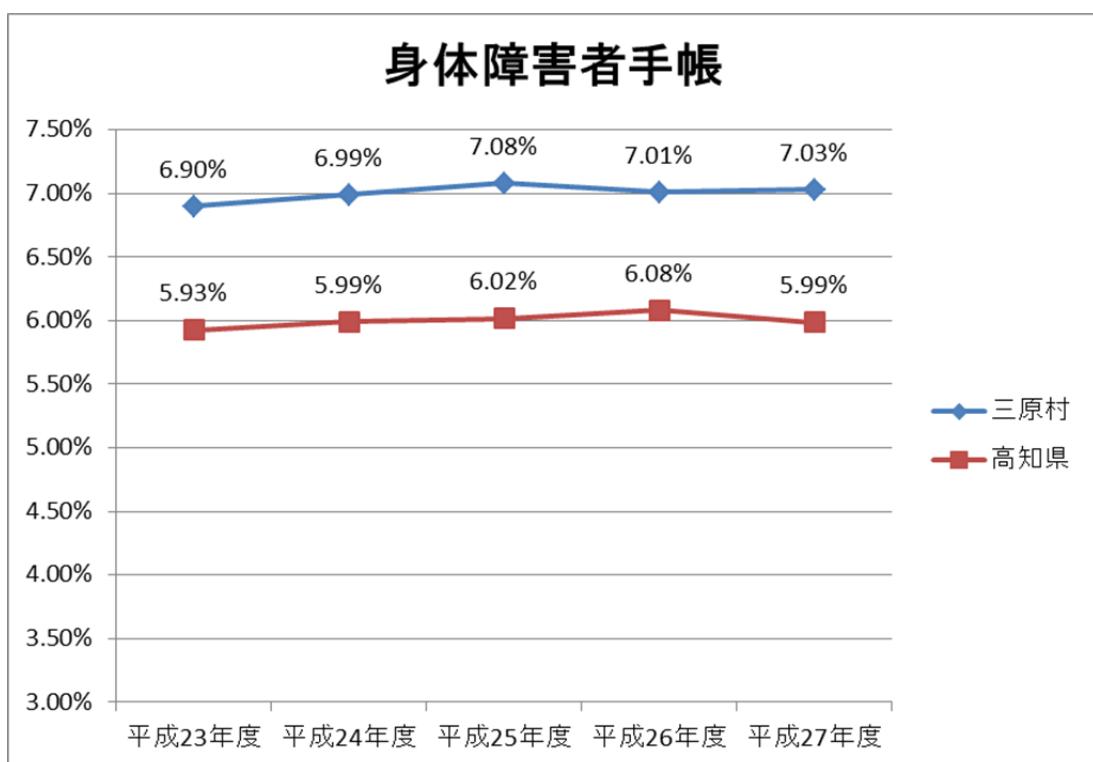
■ 各種手帳の交付状況

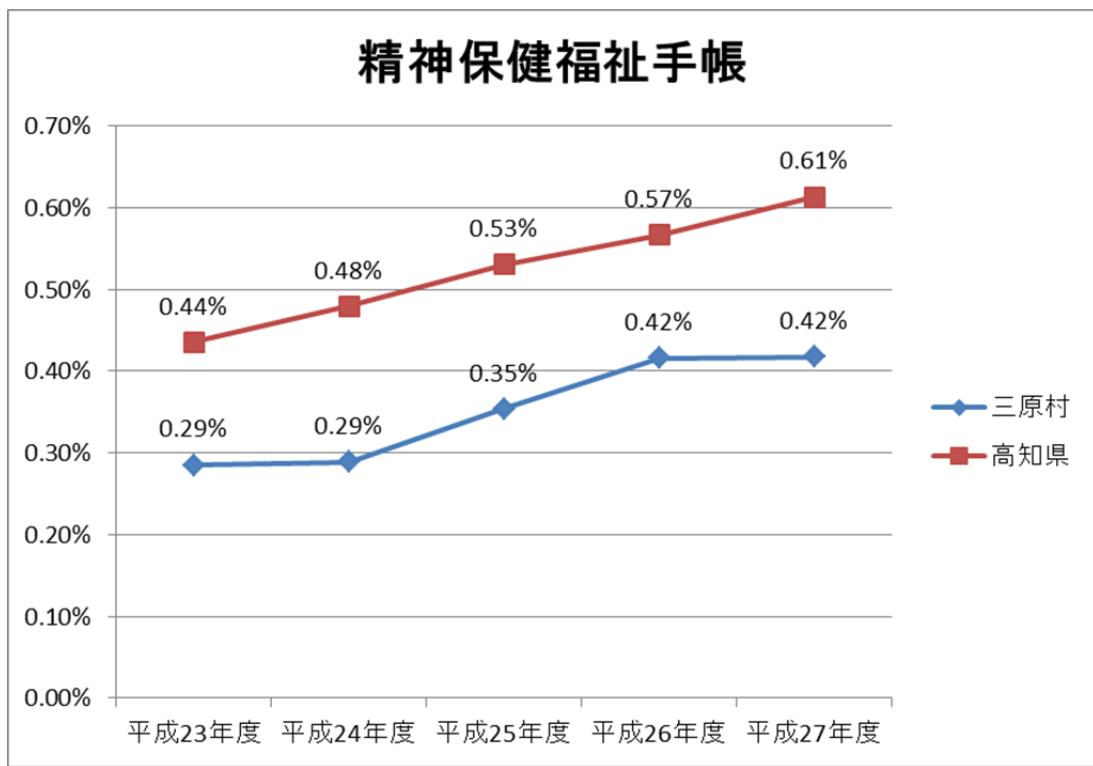
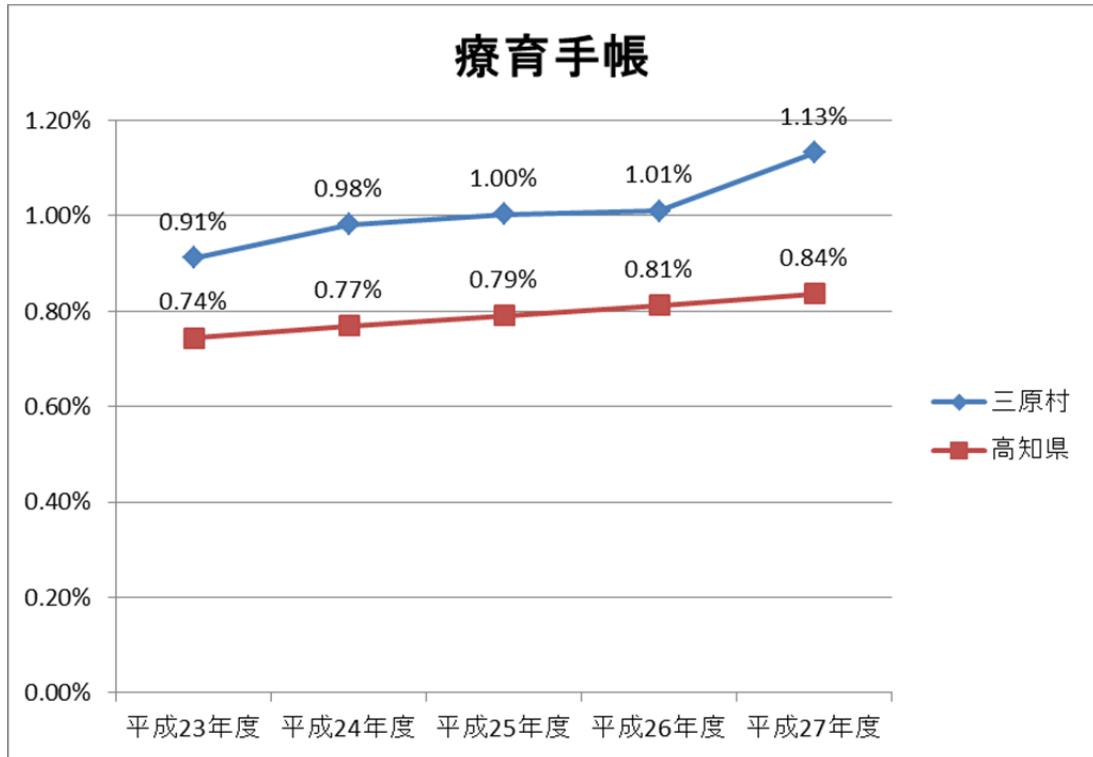
身体障害者手帳の保持者数はわずかに減少、療育手帳、精神保健福祉手帳の保持者数は、わずかに増加となりましたが、いずれもほぼ横ばいとなっています。



■ 高知県全体との比較（割合）

高知県全体と比べても大きな差は見られませんでした。





2. 聞き取り調査の結果

三原村の14地区で高齢者を対象に訪問や座談会の場で身の回りの生活課題等について聞き取り調査を実施しました。

社会福祉協議会による聞き取り調査

【実施時期】 平成28年7月～10月

【実施場所】 独居高齢者への訪問、デイサービスの利用者、地域の集い、あつたかふれあいセンター、座談会

保健師による聞き取り調査

【実施時期】 平成28年4月～10月

【実施場所】 健康相談、地域の集い、あつたかふれあいセンター

聞き取り調査からみた地域の現状と課題

現状（困っている事等）

- 独居の高齢者が多く、買い物、通院、災害時、などに困っている。
- 健康面が不安。
- じまんやはあるが、全てが揃わない。
- 一人暮らしになった時の生活や健康面に不安を感じる。
- 地域の人との付き合いが嫌になってきている。
- 今は免許も車もあるが、免許を返還した時に買い物等はどうするのか。
- バスが100円になっているが、バスの便が少ない。
- 草刈や、囲いの管理ができない。
- 地域の集いの回数が少ない。
- 一人だと寂しい。

- 家族に迷惑をかけていないか不安。
- ゴミステーションが遠く、持っていくのが大変。
- 村外から入ってきた人など、知らない人が多い。
- 地元でお葬式をしなくなった。
- 在宅での生活を希望している人が多い。

課題

- アンケートに答えた人の約半数が免許を持っているが、将来免許が無くなった時を考え不安に思っている。
- ゴミステーションが自宅から遠く持っていくことができないと意見が多い。
- 家の周辺の管理ができない。(草刈り、庭の手入れ等)
- 村外の医療機関を利用している人が多い(9割が村外を利用。重複利用者有り。)
- 災害が起きた時不安に思っている。(避難できない。裏山が崩れそう等。)
- 一人暮らし又は一人暮らしになった時のことを不安に思っている。
- 太刀踊りや、うちわ踊り、盆踊りなど後継者がいない。今後どのように継承していくのか。
- 隣近所での高齢者の援助が続けていけるのか。また、囲い切りやゴミ出しなどの高齢者ができない部分をどのように支援していくのか。



☆地域での草刈りの様子

3. アンケート調査の結果

子育て世代の方が感じている地域の生活の現状や今後の課題等について把握するためにアンケート調査を実施しました。

【調査概要】

- 実施時期 平成 28 年 9 月
- 調査対象者 三原村に在住し、子育てをしている人
- 配布数 85 枚
- 回収数 68 枚 (80.0%)

【アンケート調査結果】※資料編アンケート結果より一部抜粋

★ご近所のつながり

『近所に住んでいる人の顔と名前が分かりますか。』

ほとんどの人が前回策定時（H23）と変わらず「全て把握している」と答えており、近所同士の繋がりがあることが伺えます。しかし、「顔を知っているが名前は知らない」、「ほとんど知らない」の回答がわずかに増え、また、『家の周囲5軒くらいに住んでいる人の顔と名前がわかりますか。』の問い合わせに対し、「顔は知っているが名前は知らない」との回答が増えており、ご近所づきあいが徐々に減ってきてると推察されます。

	すべて把握している	顔は知っているが名前は知らない	ほとんど知らない	その他	計
人数	50	13	5	0	68
H28割合	73.5%	19.1%	7.4%	0.0%	100.0%
H23割合	77.0%	14.8%	2.5%	5.7%	100.0%



★ご近所の人への手助け

『あなたは近所の人に頼まれた時、次のような手伝いをしようと思いますか。(複数回答可)』

前回策定時と変わらず、「災害時の助け」が最も多く、「声掛けや安否確認」、「話し相手」、「ごみを出す」の順で多くなっており、意見の数も基本的には増加していますが、逆に、前回でも意見が少なかった「食事を作る」、「部屋の掃除や片づけ」では減少しています。また、ご近所の人への手助けの欄だけでなく、『地区の活動や地域の集まりに参加したことがあるか。』の問い合わせに対し、「近所の手助けや、地域の活動に参加してみたいが、子育てや仕事が忙しく、参加することができない。」との意見が多く見られました。

	人数	H28年割合	H23年割合
災害時の助け	49	72.1%	66.4%
ごみを出す	45	66.2%	51.6%
声掛けや安否確認	45	66.2%	62.3%
話し相手	34	50.0%	54.9%
買い物をする	22	32.4%	42.6%
病院等への送迎	19	27.9%	30.3%
草刈りや庭掃除	15	22.1%	21.3%
子どもを預かる	11	16.2%	20.5%
散歩や外出に同行	10	14.7%	22.1%
食事を作る	4	5.9%	13.9%
部屋の掃除や片づけ	2	2.9%	6.6%
その他	3	4.4%	1.6%



★地域活動について

『あなたは過去1年間に、地区の活動や地域の集まりに参加したことありますか。（複数回答可）』

集落活動センターができたことにより、地域の活動に参加する方が増えてくるのではと推測されます。

	人数	H28年割合	H23年割合
三原祭り・清流祭り	56	82.4%	80.3%
一斉清掃	53	77.9%	82.0%
どぶろく農林文化祭	49	72.1%	80.3%
保、小中学校協力活動・行事	45	66.2%	63.1%
地域の活動	36	52.9%	39.3%
集落活動センター（カフェの利用、イベントへの参加）	31	45.6%	
社会や地域での奉仕活動	15	22.1%	18.9%
青年団活動	3	4.4%	8.2%
スポーツ大会	2	2.9%	23.0%
婦人会活動	0	0.0%	3.3%
その他	0	0.0%	1.6%

★「地域福祉」についてのイメージ

『あなたが「地域福祉」からイメージするものはなんでしょうか。（複数回答可）』

「高齢者の福祉・介護サービス」が最も多く、次いで「高齢者・障害者の生きがいづくり」、「住民の助け合い、支え合い」、「障害者の介護・福祉サービス」、の順となっています。前回計画策定期から順番の変動はありますが、住民同士のつながりや高齢者、障害者についてイメージする回答が多くみられました。

	人数	H28年割合	H23年割合
高齢者の福祉・介護サービス	48	70.6%	81.1%
高齢者、障害者の生きがいづくり	41	60.3%	47.5%
住民の助け合い、支え合い	40	58.8%	50.8%
災害時の避難体制	31	45.6%	26.2%
保育所・小中学校の充実	30	44.1%	33.6%
障害者の介護・福祉サービス	29	42.6%	48.4%
生活困窮者の支援	22	32.4%	
少子化対策	16	23.5%	19.7%
働き盛りの健康づくり	13	19.1%	15.6%
ひとり親家庭の自立支援	10	14.7%	13.9%
安全・安心な出産環境	9	13.2%	13.9%
生活保護	8	11.8%	10.7%
青少年対策	4	5.9%	5.7%
イメージがわからない	4	5.9%	4.1%
その他	0	0.0%	0.0%

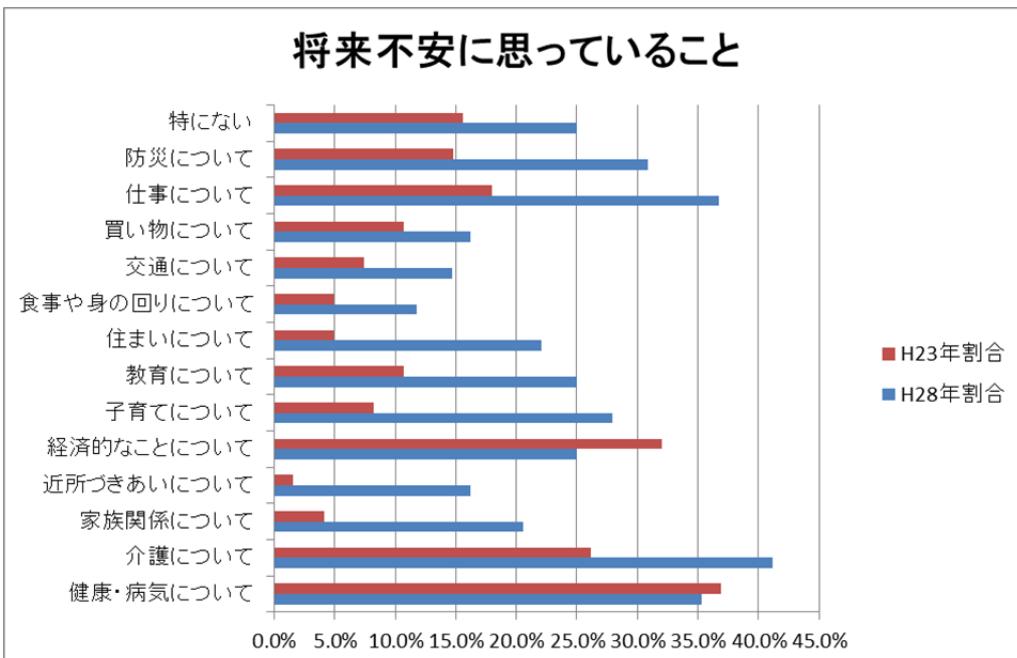
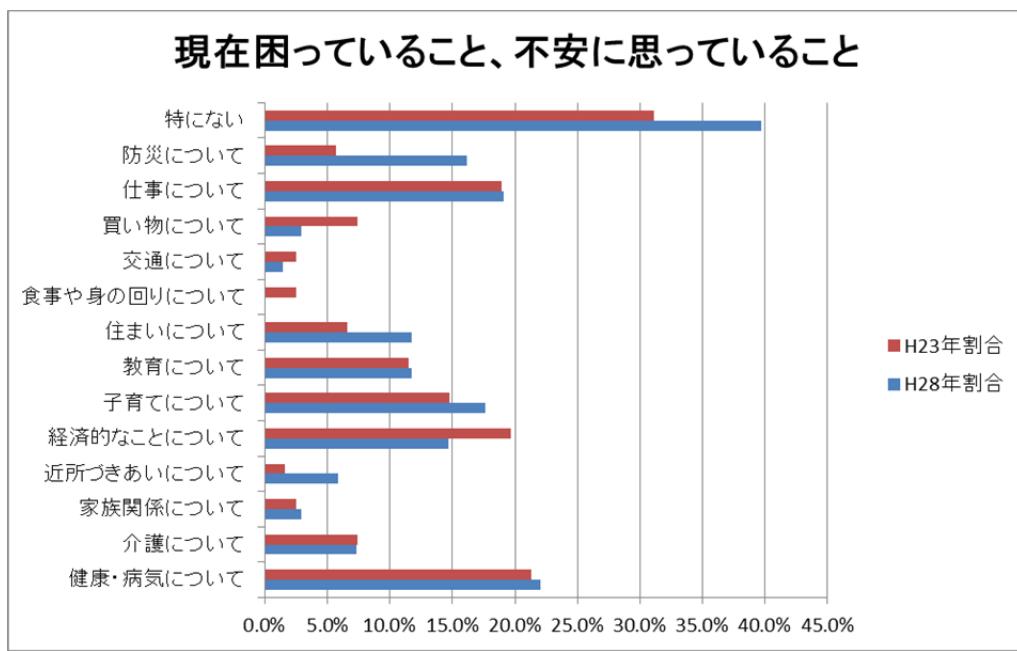
★困っていること、不安に思うことについて

『現在困っていること、不安に思っていることはありますか。』

『将来不安に思ふことはありますか。』

現在困っていること、不安に思っていることについては、「特にない」が最も多く、前回策定時（H23年）に比べ、「防災について」不安に思っている人が多くなっていますが、全体として見ると、大きい変化は見られませんでした。

将来不安に思っていることについては、一部を除き増加しています。特に、子育てについて不安に思っている方が多くなっており、長期休暇中の子どもの預かり所が欲しいとの意見が多く見られました。



★地域のためにできることについて

『あなたは、地域のために何かできること、またはしてみたいことはありますか。』

この質問は前計画時に自由記載として記入してもらったことを、今回より選択肢として質問をさせていただきました。その結果、「独居の方への声かけ」「子どもの見守り」が多く、次いで「簡単な家事の手伝い」が多くなっています。また、「買い物等の支援」については何か買ってきてほしいものを教えてもらえば買ってくるとの意見もありました。

	人数	割合
独居の方への声掛け	23	33.8%
子どもの見守り	23	33.8%
簡単な家事の手伝い	20	29.4%
きれいな村づくり	19	27.9%
買い物等の支援	13	19.1%
集落活動センターでのイベントの参加	11	16.2%
病院等への送迎	6	8.8%
書類の記入や代理申請	6	8.8%

★安心して暮らせる三原村について

『今後、誰もが安心して暮らせる三原村にするために、ご意見、ご提案などありましたらご自由に記入してください。』

住民の方が日頃から感じていることや、村に対する意見など数多く出していただきました。その中で多く見られたのは、夏休みなどの長期休暇中や仕事が遅くなる時など、家に誰もいない状況で子どもだけで過ごせることが不安との意見です。

近年は共働きの夫婦が多く、安心して仕事や子育てを行うには、このような不安を解消することが先決であると思われます。



第 3 章

計画の基本理念と目標

1. 計画の基本理念と重点目標

(1) 基本理念

本村の現状をみると、平成23年策定時から一貫して人口の減少、少子高齢化、高齢者世帯・高齢者単身世帯の増加が進んできており、地域での活動やボランティア活動などで活躍していた方も高齢になってきており、新たな担い手の確保が必要になってきています。また、買い物や移動、独居もしくは独居になることに対する不安を感じている高齢者や、子育てや近所付き合いに不安を感じている人も多くいることがわかりました。反面、まだまだ近所同士の繋がりもあり、自分にできる事があれば地域に貢献したいと考えている人も多くいます。

このような状況の下、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていくためには、地域に住む一人ひとりが主体となって、「つながり」や「助け合い」の大切さを再認識し、「ともに支え合い」「手を取り合って」人と人との温かい結びつきを、次世代を担う子ども達にもつないでいくことが大切であることから、この計画の基本理念を前回と変わらず、「あったかいきずなをつなぐ三原村」としました。

(2) 重点目標・活動目標

基本理念である「あったかいきずなをつなぐ三原村」を実現するためには、具体的な目標を設定し、計画的に取り組む必要があります。

本計画では、前回計画同じく『支え合いの仕組みづくり』『住みたい・住みやすい環境づくり』『安心・安全な地域づくり』の3つを重点目標として掲げ、計画的に取り組んでいくことにしました。また、重点目標を達成するために、それぞれの活動目標を掲げ計画の推進に取り組んでいく必要があります。活動目標は前回策定時より活動してきた5年間から見えてきた課題や達成できた課題等取り組みの中で変わってきたことを取りまとめ、次のようになりました。



支え合いのしくみづくり

住民が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、一人ひとりが主体となり、子どもから高齢者までお互いに支え合う仕組みづくりを目指し、「見守りの仕組みをつくろう！」「交流の場と機会をつくろう！」「先を見通した人財を育成しよう！」を活動目標と定め、取り組んでいきます。

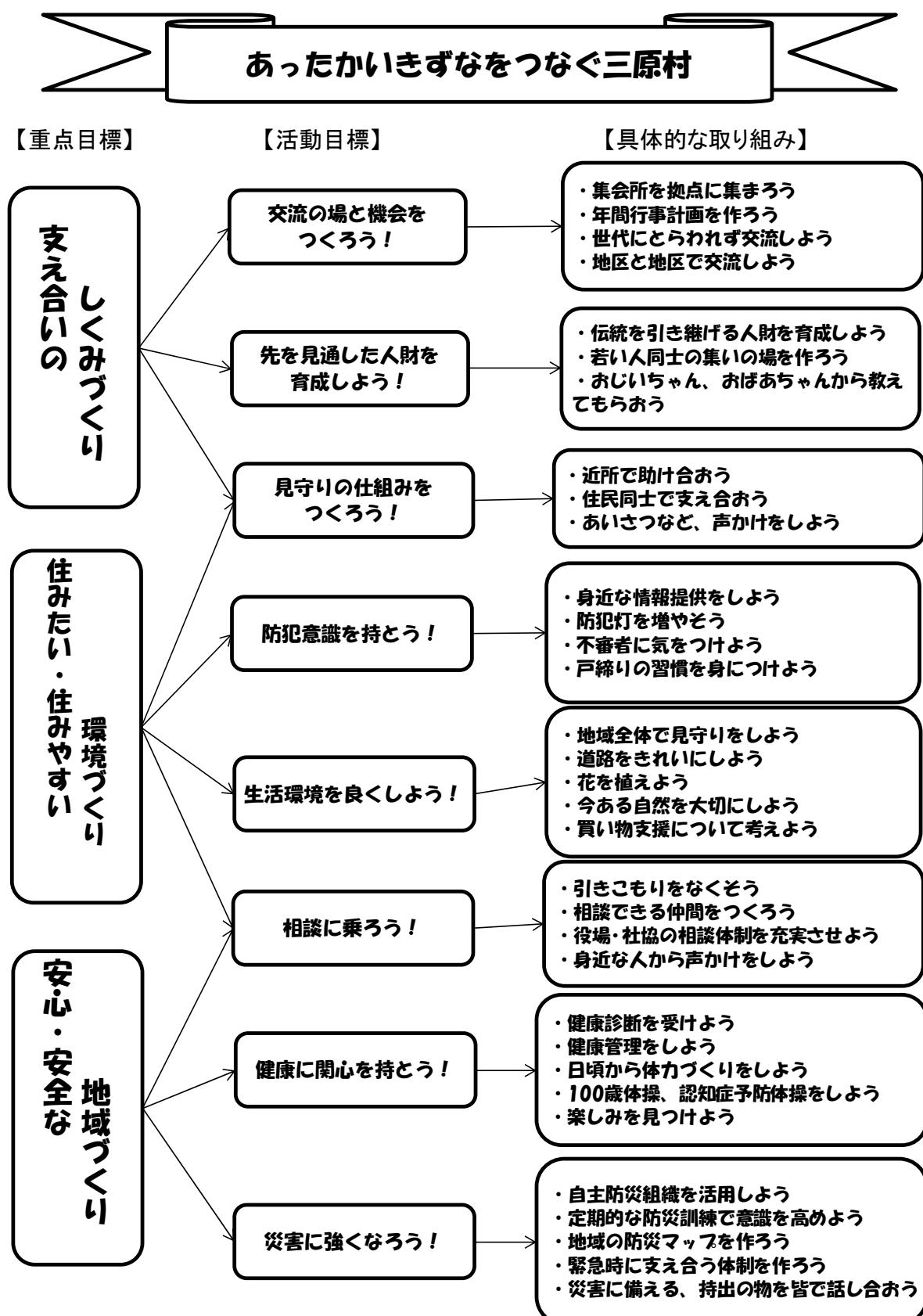
住みたい・住みやすい環境づくり

子どもから高齢者まで、誰もが住みやすい・住んで良かったと思えるような環境づくりを目指し、「防犯意識を持とう！」「生活環境を良くしよう！」を活動目標と定め、取り組んでいきます。

安心・安全な地域づくり

地域住民のつながりが徐々に希薄化している現状の中で、地域で孤立してしまうことや、将来の健康を不安に思っている方が多くいました。また、近い将来必ず起こるとされている南海大地震を心配する意見もあったことから、誰もが安心して生活を営むことができるよう、「相談に乗ろう！」「健康に关心を持とう！」「防災に強くなろう！」を活動目標と定め、取り組んでいきます。

2. 計画の体系



第 4 章

具体的な取り組み

重点目標1 支え合いのしくみづくり

活動目標：交流の場と機会をつくろう！

具体的な取り組み

- ・集会所を拠点に集まろう
- ・年間行事計画を作ろう
- ・世代にとらわれず交流しよう
- ・地区と地区で交流しよう

住み慣れた家庭や地域で安心して生き生きと生活していくためには、近所や地域での支え合いが大切であり、気軽に誰でも自由に集まることのできる居場所づくりが必要です。また、同じ地域の人だけでなく、支援を必要としている子育て家庭や障害者など、同じ悩みを抱えた人同士が集い、相談や仲間づくりができる居場所をつくることも必要です。

地域に住む人たちと、世代にとらわれず交流することにより、生涯に渡って同じ地域に住み続ける事の意義や喜びを学び合い、お互いに支え合ったり、助け合ったりできるような仕組みづくりも大切です。



～住民の声～

- ・村での行事を知りたいが、広報だけでは全然わからず参加できない。
- ・地域に婦人部はあるが、同世代の人がいないので参加しづらい。
- ・地区に村外から入ってきた人がわからない。

★今後の取り組み

みなさん やってみましょう！

- ◆地域住民が主体となった交流の場を持とう。
- ◆村・地区の行事や交流の場へ出かけるときには、近所で誘い合おう。
- ◆地区の行事を大切にし、近所とのつながりを深めよう。
- ◆世代にとらわれない交流をしよう。

社会福祉協議会が一緒に活動します！

- ◆あつたかふれあいセンターの職員が訪問活動時、参加の声かけをします。
- ◆敬老会や地区ならではの忘年会など、交流の場づくりを支援します。
- ◆地区の清掃活動等に子どもから高齢者まで参加できるように活動内容を検討していきます。

村がしっかり取り組みます！

- ◆あつたかふれあいセンター地域の集い等の充実と周知に努めます。
- ◆高齢者と保育園児・小学生・中学生との交流事業を推進します。
- ◆世代・地区にとらわれない交流の場ができるよう取り組みます。

活動目標：先を見通した人財を育成しよう！

具体的な取り組み

- ・伝統を引き継げる人財を育成しよう
- ・若い人同士の集いの場を作ろう
- ・おじいちゃん、おばあちゃんから教えてもらおう

住み慣れた地域で長く安心して暮らしていくためには、隣近所同士でお互いが支え合うことや、悩みごと・困りごとを解決してくれるボランティアが必要になってきます。しかし、ボランティア等地域福祉活動をしている人の高齢化や固定化、近所づきあいの希薄化により、地域福祉活動だけでなく、地域のお祭りや行事も継続していくことが難しくなっています。継続していく為には、若い世代の参加が不可欠です。また、今の若い世代だけでなく、その次の世代、現在の子ども達が大人になったときに引き継いでいくことが必要になります。

そのためにも、若い世代に対し地域福祉への関心を深めるための取り組みを行うとともに、活動の中心となるリーダー的な役割を果たしてくれる人財を発掘、育成に努めなければなりません。



☆伝統工芸品の土佐焼づくり

～住民の声～

- ・ボランティア活動をしたい。
- ・自分にとって故郷だから、地域の役に立ちたい。
- ・部落の出役など、年齢と共に大変になってきた。
- ・伝統（秋祭り等）を継承していきたい。

★今後の取り組み

みなさん やってみましょう！

- ◆一人一役みつけよう。
- ◆三原の伝統について知識を持とう。
- ◆自分でできるボランティア活動に参加しよう。
- ◆太刀踊り、祭り、行事などを継承していこう。



☆小・中学生による伝統芸能の披露

社会福祉協議会が一緒に活動します！

- ◆ボランティアの役割について周知し、育成の取り組みに努めます。
- ◆必要なボランティアのニーズの発掘に努めます。
- ◆昔の生活やしきたりなど高齢者の経験に学ぶ機会づくりを支援します。

村がしっかり取り組みます！

- ◆福祉教育の取り組みを推進します。
- ◆認知症サポーターの養成をします。
- ◆伝統の保存・継承をしていきます。
- ◆各地区の伝統的なものを掘り起こして他へ発信していきます。

活動目標：見守りの仕組みをつくろう！

具体的な取り組み

- ・近所で助け合おう
- ・住民同士で支え合おう
- ・あいさつなど、声かけをしよう

人口の減少に伴い、人と人の繋がりが希薄になってくることが予想されます。高齢になると家に閉じこもりがちになったり、地域の中でコミュニケーションをとることが苦手な人や、U・Iターンなどで村に知り合いが少なく不安な方もいます。また、ひとり暮らしの高齢者、子育て中の方、障害を持つ方など地域の中で、不安や困難を抱えている方もいます。

困った時に頼りになるのは隣近所の皆さんです。日ごろからあいさつや声を掛けあい、困った時はお互い様と言えるような仕組みを作りましょう。



～住民の声～

- ・隣の家の人気が気になる。
- ・ときがいない。
- ・よそ者を寄せ付けない冷たさを感じる。
- ・見守り等環境を良くしてほしい。

★今後の取り組み

みなさん やってみましょう！

- ◆一日1回隣の人の顔を見よう。
- ◆できることからお互い助け合おう。
- ◆地域の活動に参加しよう。

社会福祉協議会が一緒に活動します！

- ◆民生委員・児童委員の見守り活動をサポートします。
- ◆見守り協定を結んでいる、高知新聞や JA と連携した見守り活動を推進します。
- ◆配食サービスによる見守りを充実させます。
- ◆世代間の交流の機会をつくり、住民同士の関係性の構築に努めます。

村がしっかり取り組みます！

- ◆スクールガードリーダーを中心とした見守り活動を強化します。
- ◆要援護者の見守り体制を強化します。
- ◆あったかふれあいセンターの機能を充実させます。
- ◆関係機関との見守りネットワークづくりに取り組みます。

重点目標2 住みたい・住みやすい環境づくり

活動目標：防犯意識を持とう！

具体的な
取り組み

- ・ 身近な情報提供をしよう
- ・ 防犯灯を増やそう
- ・ 不審者に気をつけよう
- ・ 戸締りの習慣を身につけよう

近年不審者による犯罪や、空き巣被害、暗い道での交通事故など増加しています。本村の住民の傾向として「犯罪は人の多い都会だから起こることだ」「周りは知った人ばかりだから」と言った意識が強く、家の鍵を掛けずに外出・就寝する人もいます。近年では特殊詐欺など機械操作が苦手な高齢者を狙った犯罪も増えており、また、村外の人が入ってくる機会が増えている為、見知らぬ人が村内を歩いていてもおかしくなく、今までのように安全ではなくなっています。また、中高生へのアンケート結果では、「部活の下校等、帰り道が暗い」との意見が多く見られます。

住みやすい村にするためにも、防犯について学び、考えていく必要があります。

～住民の声～

- ・ 街頭が少ないので、夜が怖い。
- ・ 振り込め詐欺が三原でも起こらないか不安。

★今後の取り組み

みなさん やってみましょう！

- ◆外出時、就寝時に戸締りをしよう。
- ◆暗い道ではライトをつけよう。
- ◆犯罪について学ぼう。



社会福祉協議会が一緒に活動します！

- ◆防犯について啓発活動を実施します。
- ◆民生委員・児童委員の街頭指導を強化します。
- ◆関係機関との連絡網の強化と住民に情報を周知します。
- ◆訪問活動にて見知らぬ人がいたら警戒します。

村がしっかり取り組みます！

- ◆防犯灯を増やすよう努めます。
- ◆住民の防犯意識が高まるように啓発します。



活動目標：生活環境を良くしよう！

具体的な取り組み

- ・地域全体で見守りをしよう
- ・道路をきれいにしよう
- ・花を植えよう
- ・今ある自然を大事にしよう
- ・買い物支援について考えよう

生活を営んでいく中で欠かせないのは買い物です。高齢者の中には免許を返還している方もおり、買い物が不便と言った意見が多く、訪問販売はありますが、全ての地区を回れておらず、全ての人に支援ができていません。また、『三原村の良いところは』と聞くと、「自然が多い」「食べ物がおいしい」「地域の人が優しい」など自然環境を中心に様々な意見が返ってきました。しかし、「道路にゴミが落ちている」「草が生えっぱなしで雑草が目立つ」などと感じている方もいます。絶滅危惧種のヒメノボタンや、水面を飛び交うホタルなど、豊かな自然の保護に取り組む必要があります。

こうした普段の生活環境を良くしていくことも住みやすい村づくりにつながっていきます。



☆ヒメノボタン



☆ホタル

～住民の声～

- ・車に乗るのが嫌になってきたが、免許がなくなると買い物、通院に困る。
- ・家の周辺の管理ができない。
- ・ポイ捨てがある。
- ・雑草が目立つ。

★今後の取り組み

みなさん やってみましょう！

- ◆かわりに買い物をしてくるなど、声をかけ合おう。
- ◆道路沿いなど、近所の美化活動をしよう。
- ◆集会所の周りを花でいっぱいにしよう。
- ◆地域の自然を活かした取り組みをしよう。

社会福祉協議会が一緒に活動します！

- ◆あつたかられあいセンター事業で買い物について検討します。
- ◆関係機関と連携して検討します。
- ◆環境美化活動（花植え、清掃活動等）への啓発活動をします。



村がしっかり取り組みます！

- ◆道路沿いの草刈りや一斉清掃を定期的に行います。
- ◆地域の自主的な取り組みを支援します。
- ◆あつたかられあいセンター・地域の集い・介護保険サービスの充実と周知に努めます。
- ◆ポイ捨て禁止や不法投棄禁止等、啓発に努めます。

重点目標3 安心・安全な地域づくり

活動目標：相談にのろう！

具体的な取り組み

- ・引きこもりをなくそう
- ・相談できる仲間をつくろう
- ・役場、社協の相談体制を充実させよう
- ・身近な人から声かけをしよう

地域の現状を見ると、ひとり暮らしの高齢者や障害のある人、子育てや介護に追われている人など支援が必要と思われる人が数多くいます。地域の中で安心して暮らしていくためには、見守りや支え合いを進めることが重要となります。また、移住してきた方など、地域での決まり事や活動がわからぬい、近所の人に親しい人がいないなど、相談する先が無く、不安に感じている人もいます。

こうした、日常生活の中で困難を抱えている人に対し、適正な支援を行っていくためには、日ごろからの声かけや見守りの体制づくりが大切であり、行政や社会福祉協議会だけでなく、地域の人も含めた見守りのネットワークの構築が求められています。

～住民の声～

- ・一人になったとき、地域の皆さんにお世話にならないといけない。
- ・心配事はあるが、相談する場所がない。
- ・村外から来た人に風習を教える必要があるのでは。

★今後の取り組み

みなさん やってみましょう！

- ◆気軽に声をかけあい、助け合おう。
- ◆一人暮らしの人へ声かけをしよう。
- ◆世代を超えて交流し、繋がりを作ろう。

社会福祉協議会が一緒に活動します！

- ◆心配ごと相談を充実させます。
- ◆同じ趣味や仲間が集まる場作りを支援します。
- ◆相談先の情報を住民に発信します。
- ◆あつたかふれあいセンター事業、地域の集い事業への参加の呼びかけをします。

村がしっかり取り組みます！

- ◆地域の活動を支援します。
- ◆相談体制を充実させます。
- ◆福祉・介護サービスの情報を発信します。
- ◆行政手続き、人権擁護関係の相談体制を充実させます。



活動目標：健康に関心を持とう！

具体的な取り組み

- ・健康診断をうけよう
- ・健康管理をしよう
- ・日頃から体力づくりをしよう
- ・100歳体操、認知症予防体操をしよう
- ・楽しみを見つけよう

高齢化が進む中で、地域で生きがいを感じ、生き生きと暮らしていくためには「健康」が最も基本となるものであり、心身共に健康であることは、元気で生きがいのある生活を送るうえで必要不可欠です。

高齢になっても健康を維持していくために、自分自身で健康管理を行い、体力づくり、趣味や楽しみを見つけることが大切です。



☆体操の様子

～住民の声～

- ・一人暮らししながら、健康面が気になる。
- ・健康診断はあるが、乳がんなど若い年代でも受けられるようになってもらいたい。
- ・今は元気だが、将来はわからない。

★今後の取り組み

みなさん やってみましょう！

- ◆年1回は健康診断を受けよう。
- ◆体力に応じた健康法を見つけて実行しよう。
- ◆ウォーキングなど仲間を集めて行おう。
- ◆バランスのとれた食事をしよう。
- ◆みんなとおしゃべりをするなど楽しめる場をつくろう。



社会福祉協議会が一緒に活動します！

- ◆あつたかふれあいセンター事業、地域の集い事業でいきいき百歳体操を実施します。
- ◆食事会や楽しみづくり等の仲間と集まる場の充実に努めます。
- ◆輪投げ大会やふれあい運動会の継続と充実に努めます。
- ◆配食サービスの充実について検討します。

村がしっかり取り組みます！

- ◆健康診断・特定健診を受けやすい体制づくり、啓発に努めます。
- ◆関係団体と連携し、バランスのとれた食生活について普及啓発に努めます。
- ◆生涯スポーツの推進に取り組みます。

活動目標：災害に強くなろう

具体的な取り組み

- ・自主防災組織を活用しよう
- ・定期的な防災訓練で意識を高めよう
- ・地域の防災マップを作ろう
- ・緊急時に支え合う体制を作ろう
- ・災害に備える、持出の物を皆で話し合おう

近い将来起こり得る南海地震や台風などの災害には日頃からの十分な備えが必要になります。まず、自分の身を守ることが大切ですが、高齢者や障害者、乳幼児等の災害時に支援を必要とする方々については、地域の皆さん之力が必要です。

被害を最小限に抑えるためには、自主防災組織を活性化させ、計画的な防災訓練等の実施が必要であるとともに、要援護者の安否確認や避難誘導などの安全確保についても、日頃から考えておかなければなりません。

地震や台風などの災害から自分自身や家族を守るために、災害発生時の地域住民による協力体制を構築し、高齢者や障害を持つ方なども安心して暮らすことのできる村づくりが必要です。

～住民の声～

- ・地震が起きた時、家の裏が山なので逃げられるか心配。
- ・台風の時、一人暮らしなので怖かった。
- ・家が古いため、地震が起きたらと思うと怖い。
- ・親が介護が必要なので、災害の時心配。

★今後の取り組み

みなさん やってみましょう！

- ◆避難場所の確認をしよう。
- ◆防災マップを作つて、地域の現状を把握しよう。
- ◆防災訓練や防災学習に積極的に参加しよう。
- ◆緊急時に備え、日頃から高齢者へ声かけをしよう。
- ◆防災グッズを備えよう。
- ◆どんな防災資材があるか確認しておこう。



社会福祉協議会が一緒に活動します！

- ◆あつたかふれあいセンター事業で実施場所ごとに防災マップを作ります。
- ◆あつたかふれあいセンター事業で防災訓練、防災学習会を検討します。
- ◆小学校、中学校で防災について勉強会の支援をします。
- ◆災害ボランティアセンターの運営体制づくりをします。

村がしっかり取り組みます！

- ◆災害時個別支援計画の作成を進めます。
- ◆村全体や村外の関係機関と連携した防災訓練を実施します。
- ◆避難支援者を中心とした近隣の「ネットワークづくり」を進め、協力体制を作ります。
- ◆子どもの頃から防災意識を高めるための取り組みを強化します。
- ◆自主防災組織の活動を推進し、組織の活性化を図ります。
- ◆防災について学習する場を提供します。

★災害時避難行動要支援者対策

避難支援については、避難行動を支援する人も含めて、まずは一人ひとりが自分や家族の身は自分で守るという意識のもとに行う「自助」、隣近所への声掛けや安否確認、さらに自主防災組織などによる組織的な安否確認、避難誘導等の「共助」が確実に行われる取組が重要となります。このような「自助」、「共助」が機能するためには、日ごろから地域で話し合いの機会を設けるなど、支援体制の構築に向けた活動が重要であり、避難支援にあたっては「地域の人は、地域で守る」を基本とし、地域のさまざまな人ととのつながりにより平常時・災害発生時を通じた支援体制づくりを進めていくことが必要となります。

そこで本村では、避難支援が必要と判断される方に対し、支援者が必要な情報を名簿として管理することに同意を頂き、消防や警察だけでなく、区長や民生委員、近隣の支援者へ情報を提供しています。

★あったかられあいセンター

あったかられあいセンターとは、見守り・支え合いの地域づくりのため、子どもから高齢者、或いは障害者の方など誰もが気軽に集える日中の居場所づくりや、訪問、相談、生活支援サービスなどを受けることができる地域福祉の拠点として高知県が推進している事業です。

事業の実施主体は市町村で、各地域のニーズや課題への対応等、特色を活かした活動を行っています。

第 5 章

各地区の現状と課題

1. 各地区で取り組みを進めるために

本村の14地区にはそれぞれに特色があり、各地区の現状や抱える課題も様々です。そういったことから、地区ごとに現状や課題を整理し、今後の取り組みを考えていく必要があります。

そのため、前回計画策定時、地区ごとのデータや聞き取り調査の結果、アンケートの結果を住民の皆さんができるだけの地域で何が必要か、何ができるかを考えいくための基礎資料となるよう取りまとめました。

今回計画では、社会福祉協議会による三原村地域福祉活動計画の推進より、この5年間のうちに地区で取り組まれてきたこと、改善されたこと、さらに見えてきた課題等を取りまとめました。

各地区の人口と世帯状況等を表にまとめたものをみてみると、ほとんどの地区で高齢化率は40%を超えており、中には60%を超えている地区もあります。こうした少子高齢化の状況で、各地区で住民同士が支え合い、課題を解消していくために、どのような取り組みができるのか考えていく必要があります。

2. 各地区の人口と世帯状況等

部落名	世帯数	人口	男 女	65歳以上 高齢化率	高齢世帯 高齢単世帯	年齢階層					介護認定者数				
						0~19	20~39	40~59	60~79	80~	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3
下切	32	62	30 32	28 45.16	13 9	4	10	17	9	22	1	1	0	2	1
龜ノ川	35	60	30 30	39 65.00	24 18	4	2	12	24	18	2	2	3	2	1
広野	19	36	19 17	23 63.89	14 8	2	5	4	14	11	0	3	1	1	0
柚ノ木	141	324	152 172	131 40.43	58 31	42	50	89	83	60	8	5	4	1	2
宮ノ川	152	323	152 171	143 44.27	65 40	62	76	93	119	64	3	8	7	0	4
来栖野	63	108	55 53	50 46.30	29 15	8	23	16	42	19	1	2	2	5	1
皆尾	55	113	55 58	51 45.13	27 15	12	15	23	35	28	2	4	3	1	4
芳井	14	30	13 17	9 30.00	6 6	3	8	7	11	1	0	0	1	0	0
下長谷	88	193	101 92	84 43.52	41 24	22	26	51	57	37	3	2	2	3	2
上下長谷	44	95	47 48	41 43.16	17 8	13	18	10	42	12	0	0	2	0	2
上長谷	52	112	57 55	56 50.00	25 12	9	18	22	38	25	3	0	2	2	1
狼内	27	56	25 31	32 57.14	14 8	2	7	11	22	14	2	2	0	1	0
成山	14	39	19 20	17 43.59	5 2	9	3	8	12	7	0	0	1	0	1
星ヶ丘	28	91	47 44	12 13.19	6 2										
合計	764	1,642	802 840	716 43.61	344 198	192	261	363	508	318	25	29	30	18	20
														14	22

特養星ヶ丘入所者を除く
入所者 男：1人 女：14人

(資料 : 住民基本台帳)
(H28.8.31現在)

3. 現状と課題

■ 下切

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)		75
男	32	42.67%
女	43	57.33%
0～19歳	10	13.33%
20～64歳	19	25.33%
65歳以上	36	48.00%
世帯数(戸)		36
独居高齢者数		13
要介護・要支援者数		9



平成28年8月31日		
人口(人)		62
男	30	48.39%
女	32	51.61%
0～19歳	4	6.45%
20～64歳	30	48.39%
65歳以上	28	45.16%
世帯数(戸)		32
独居高齢者数		9
要介護・要支援者数		9

●前回策定時の今後の課題

- ・女性は何らかの事業に参加しているが、男性の参加が少ないので、男性に参加してもらいたい。
- ・あったかふれあいセンター2回/月のうち、1回は健康体操として簡単な体操に取り組み始めている。
- ・いきいき百歳体操をより効果的に取り組む。
- ・集会所の利用について、部落での使用料負担では利用しにくい。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・集会所の周り等の花植え → 年2回程実施している。
- ・あったか集い（2回/月、半日）
- ・地域の集い（1回/月）
- ・秋祭り（太刀踊り） → フィリピンからの研修生も参加している。
- ・雄ツツジの世話 → 協力できる方が協力してやっている。
- ・老止めクラブ（こも網み、餅つき、こんにゃく、みそ作り）

●地域の現状（H28年現在）

- ・利用者の高齢化に伴い「いきいき百歳体操」の実施が難しくなってきている。
- ・高齢化が進み、地域での暮らしがやっとの人が増えている。
- ・男性の参加者が少ない。（集い）
- ・自主防災訓練やお祭りなど地区での団結力は強い。
- ・高齢化に伴い、老止めクラブの開催が難しくなってきている。
- ・65歳以下の支える人達が多いので安心して生活できる。

●今後の課題

- ・あつたか集いについて、月1回のみになる話もあったが、集まりたいとの希望があり月2回で継続している。しかし、支援を続けると自立性が低下してきているように感じる。
- ・行事等やるときの集まりは良いが、高齢者が動けなくなってきた。
- ・草引き等ボランティアが欲しい。
- ・一人ひとりの役目を作る。（若者にしかできないこと。お年寄りにしかできないこと。）
- ・地域で助け合って生活していく。



☆こもづくりの様子

～社会資源～

- ☆老止めクラブ
 - ☆農家食堂・農家民宿 NOKO
 - ☆豆腐製造販売
 - ☆子授かり地蔵
 - ☆下切城跡
 - ☆秋祭り：太刀踊り
 - ☆銘木ムクロジ
- などがあります。

生涯現役。「みんな元気でがんばろう」をモットーに繋がりが強く、高齢者の能力を活かし、パワー全開の地域です。

■亀ノ川

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	62	
男	31	50.00%
女	31	50.00%
0～19歳	2	3.23%
20～64歳	21	33.87%
65歳以上	39	62.90%
世帯数(戸)	35	
独居高齢者数	12	
要介護・要支援者数	3	



平成28年8月31日		
人口(人)	60	
男	30	50.00%
女	30	50.00%
0～19歳	4	6.67%
20～64歳	17	28.33%
65歳以上	39	65.00%
世帯数(戸)	35	
独居高齢者数	18	
要介護・要支援者数	12	

●前回策定時の今後の課題

- ・参加者の平均年齢の低い地区なので、他の地区とは違ったメニューつくりが必要である。
- ・高齢者事業について、何らかの課題がある。
- ・集会所の新築をきっかけに、地区住民と高齢者事業の取組みについて検討する場を設ける。
- ・病院など緊急時にタクシーを利用したとき、村で補助してほしい。
- ・自主防災を積極的に行い、備えられている資材等の使用点検及び訓練をしたい。被災地で活動した方の体験を通し、現状では何がおきるのか、おこっているのか、それらに対しての対応等を聞き、今後の参考にしたい。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・毎週月曜日に集会所を開放。
- ・あったか集い（1回/月）
- ・地域の集い
- ・蛍を守る会 → 蛍祭りの継続。（H28年の第4回螢祭りでは婚活イベントも実施した）
- ・やまびこカフェの完成に伴い参加を始めた。（1回/月）
- ・助け合いクラブ → 3年くらい前に休止していたが、囲い切り等有償で実施。

●地域の現状（H28年現在）

- ・高齢化率一番は変わらず、一人住まいが多い。（特に女性）
- ・区長の関わりで地区が活気付いてきている。
- ・集会所の改修後から地区活動が活発になった。



●今後の課題

- ・高齢者1人住まいの災害時等の安全安心生活の確保。
- ・ゴミ出しについて課題がある。 → 地区で対応策を考え中
- ・地区のリーダーの交代など。



☆ホタル祭での流しそうめん

～社会資源～

- ☆亀ノ川城跡
- ☆中平宗兵衛の墓
- ☆能蔵寺の地蔵菩薩
- ☆山の神大ユスの古木
- ☆ホタル祭
- ☆亀ノ川健康及び助け合いクラブ
- ☆秋祭り
- などがあります。

**高齢化が進みましたがまだまだ元気です！
毎週月曜日は集会所の開放日と定め、高齢者が集い、いきいき百歳体操、その後のコーヒータイムやおしゃべりを楽しんでいます。**

■ 広野

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	40	
男	20	50.00%
女	20	50.00%
0～19歳	2	5.00%
20～64歳	16	40.00%
65歳以上	22	55.00%
世帯数(戸)	22	
独居高齢者数	7	
要介護・要支援者数	2	



平成28年8月31日		
人口(人)	36	
男	19	52.78%
女	17	47.22%
0～19歳	2	5.56%
20～64歳	11	30.56%
65歳以上	23	63.89%
世帯数(戸)	19	
独居高齢者数	8	
要介護・要支援者数	6	

●前回策定時の今後の課題

- ・集まるニーズの少ない地区である。
- ・あつたか集い1名、地区の集い未開催、でありもう少し現状を分析し高齢者事業について検討しないといけない。
- ・緊急時の通報システムを整備してほしい。
- ・若者、子どもがいないため衰退する一方である。
- ・いかにして地域の人を集めるか、集まつてもうかが今後の課題である。(地域の集い事業の実施を投げかけ、協議してもらっている。)

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・支え合いマップ作り。
- ・月1回のあつたか集いの開催が、男性を中心となって、運動をしたいということで月2回集まり始めた。

●地域の現状（H28年現在）

- ・高齢者の独居が多いが、高齢者同士の交流はある。
- ・出役、田役等の地区の作業となると集まりは良い。（男性を中心となって木を刈ったりしてくれる。）

●今後の課題

- ・緊急連絡網の作成。（災害時など）
- ・地区の集いは援助員が確保できず実施に至っていない。
- ・基本的には前回と同じになる。



☆つびよう石

～社会資源～

☆広野城跡
☆こつびよう石
☆圓福寺
☆秋祭り
☆炭焼き
などがあります。

「広野を守る会」で花を植え、地域をきれいにしています。また、今の山から流れてくる水のきれいな地域です。

■ 柚ノ木

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	335	
男	161	48.06%
女	174	51.94%
0～19歳	49	14.63%
20～64歳	161	48.06%
65歳以上	125	37.31%
世帯数(戸)	139	
独居高齢者数	18	
要介護・要支援者数	15	



平成28年8月31日		
人口(人)	324	
男	152	46.91%
女	172	53.09%
0～19歳	42	12.96%
20～64歳	151	46.60%
65歳以上	131	40.43%
世帯数(戸)	141	
独居高齢者数	31	
要介護・要支援者数	24	

●前回策定時の今後の課題

- ・人口が多いことから、地区があつたか集いについてどう考えているか、住民ニーズがつかめていない。
- ・高齢者訪問等を検討し、再度現状を分析した上で、あつたか集いの方向性について検討しなければならない。
- ・婦人会組織の解散。（各種団体の活動が少なくなってきた。加入者の減少。）

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・婦人部による花見 → 60歳以上の方に声かけをし、参加費500円で料理を作成。
- ・やまびこカフェ → 毎週金曜日に参加。
- ・秋祭り（太刀踊り） → 児童も参加している。
- ・あつたか集い（1回/月）
- ・地域の集い（1回/月）
- ・福祉センターの集い（1回/月）



☆やまびこカフェへの参加

●地域の現状（H28年現在）

- ・お出かけイベントが好きで、昨年度20人ほど参加した。
- ・自宅で夫婦共に生活を送っている家庭が多い。
- ・あったか集いは参加者が少ない。

●今後の課題

- ・地域の活動に若い人に参加してもらいたい。
- ・あったか集いのあり方を考える必要がある。
- ・各集いの継続をしていく。
- ・災害時の避難経路の確認が必要。



☆太刀踊り

～社会資源～

- | | |
|-------------|----------|
| ☆柚ノ木城跡 | ☆硯工場 |
| ☆敷地一族の墓 | ☆子安地蔵 |
| ☆郵便局 | ☆小学校 |
| ☆金毘羅さん | ☆駐在所 |
| ☆秋祭り：太刀踊り | ☆福祉センター |
| ☆柚ノ木総合グラウンド | ☆豆腐製造販売 |
| ☆サザンカの古木 | などがあります。 |

**秋祭りが一番盛んに行われている地域です。
また、高齢者夫婦の世帯が多く、隣近所との
つながりが多い地域です。**

■宮ノ川

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	334	
男	149	44.61%
女	185	55.39%
0～19歳	33	9.88%
20～64歳	151	45.21%
65歳以上	150	44.91%
世帯数(戸)	166	
独居高齢者数	43	
要介護・要支援者数	25	



平成28年8月31日		
人口(人)	323	
男	152	47.06%
女	171	52.94%
0～19歳	34	10.53%
20～64歳	146	45.20%
65歳以上	143	44.27%
世帯数(戸)	152	
独居高齢者数	40	
要介護・要支援者数	35	

●前回策定時の今後の課題

- ・地域の集いの利用者が増えない。地域支援事業とあったかられあいセンター事業を1本化にすればいいのでは。
- ・今後免許が無くなった時、子どもが村内にいなため通院等にタクシーを利用しなければならなくなり、出費が重なる。手軽なバスが利用できたらありがたい。
- ・地域の支え合いが欠けてきている。まとまりがあるように思われない。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・支えあいマップ作り。
- ・やまびこカフェへの参加。
- ・あったか集い（4回/月） → 2グループに分けて開催。
- ・地域の集い（1回/月）



☆やまびこカフェへの参加

●地域の現状（H28年現在）

- ・高齢化が進むにつれ、集い等の参加者が減少している。
- ・高齢者中心と体操を実施するグループ2つにあったか支援を行っている。体操グループも体操だけでなく食事等の交流も欲しいと思い始めているが、高齢者中心のグループとの同時開催は参加者のバランス的に難しいのではないかと考えている。
- ・地区内の支援員が少ない。（地区外からの応援もあり）
- ・集会所の鍵は区長宅にあり、借りやすい。
- ・集会所の環境が高齢者にしんどくなっている。

●今後の課題

- ・可能な限り、身近な集まりからの参加を呼び掛ける。
- ・体操（いきいき百歳体操）をしたいという希望があり、あったか集いの支援で開催されている。 → 参加した後の会話を楽しむように。
- ・各集いの集まりが良くなってきたので、絆が良くなるようなメニュー、魅力的なメニュー作りをしている。（笑いヨガ、認知予防に関すること等）
- ・地区の集いの利用者の高齢化が進み、介護等の配慮が必要。また新たな参加者はいない。
- ・地区の集まりが少なくなってきた。



☆体操後のお茶会の様子

～社会資源～

- | | |
|---------------|--------------|
| ☆清水川牧場 | ☆石崎製茶（茶畑） |
| ☆農家食堂・民宿 森本まる | ☆五社神社 |
| ☆御留木（イチイガシ） | ☆グループホームほうばい |
| ☆円誠さんと祠 | ☆保育所 |
| ☆中学校 | ☆良心市（2か所） |
| ☆農業構造改善センター | ☆公衆トイレ |
| ☆秋祭り | ☆サザンカの古木 |
| ☆牧野富太郎の道 | |

などがあります。

**外出が難しい人は庭へ、畠へ、道路へ。
外出ができる人は身近な集いへ。
「家中からまず一歩外へ」を目指している地域です。**

■ 来栖野

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	115	
男	59	51.30%
女	56	48.70%
0~19歳	13	11.30%
20~64歳	58	50.43%
65歳以上	44	38.26%
世帯数(戸)	55	
独居高齢者数	10	
要介護・要支援者数	9	



平成28年8月31日		
人口(人)	108	
男	55	50.93%
女	53	49.07%
0~19歳	8	7.41%
20~64歳	50	46.30%
65歳以上	50	46.30%
世帯数(戸)	63	
独居高齢者数	15	
要介護・要支援者数	13	

●前回策定時の今後の課題

- ・サポーターの養成転倒予防普及体操の実施についてPRし、参加につなげる。
- ・女性の高齢者が多く、今後家屋等の周辺管理ができなくなるのではないだろうか。
- ・地域の集い事業とあったかられあいセンター事業の参加者の差がある。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・一斉清掃+花壇の花植え（1回/年）、側溝清掃（2回/年）
- ・婦人会研修旅行（1回/年）
- ・あったか集い（1回/月）
- ・地域の集い（2回/月）
- ・診療所前のバス停に季節の花や俳句を飾り、お遍路さん等の休憩場所として活用、近所の人の交流の場になっている。
- ・近所同士で声を掛け合い、4~5人でウォーキングをし、健康維持及び安否確認を行っている。

●地域の現状（H28年現在）

- ・独居世帯が多い、高齢者ばかりで防災面が不安。
- ・地域活動はみんなが参加してスムーズにできている。
- ・65歳以上45人中12人が何らかの事業に参加している。
- ・地区集会所を毎週火曜日に利用。利用者も曜日が固定されているので楽しみにしている。
- ・男性の参加者も多い。（妻等に誘われての参加者もあり）
- ・地区内にある喫茶店であつまり交流しているグループが独自にある。

●今後の課題

- ・支えあいマップの作成 → 世帯別の色分け、つながりを線で結ぶ。
- ・高齢者が多くなり、次の世代へのバトンタッチが難しくなっている。
- ・援助員の育成。（次の担い手がない）



☆集いで飾りづくり



☆自然公園のオンツツジ

～社会資源～

- | | |
|----------|-----------------------|
| ☆へんろ石 | ☆村役場 |
| ☆良心市 | ☆農協 |
| ☆三原村自然公園 | ☆就労継続支援B型
事業所 わらわら |
| ☆国保診療所 | ☆バスセンター |
| ☆秋祭り | ☆つつじまつり
などがあります。 |

花壇の草刈りや花植え、溝の掃除など、地域の美化活動を部落全員で行っています。

■ 皆尾

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	121	
男	54	44.63%
女	67	55.37%
0～19歳	20	16.53%
20～64歳	53	43.80%
65歳以上	48	39.67%
世帯数(戸)	57	
独居高齢者数	15	
要介護・要支援者数	11	



平成28年8月31日		
人口(人)	113	
男	55	48.67%
女	58	51.33%
0～19歳	12	10.62%
20～64歳	50	44.25%
65歳以上	51	45.13%
世帯数(戸)	55	
独居高齢者数	15	
要介護・要支援者数	17	

●前回策定時の今後の課題

- ・運動教室については、定期的に開催できるよう日程調整をする。
- ・いきいき百歳体操の実施についてPRしていく。サポーターの増員。(育成)
- ・おしゃべりしたりする場所がほしい。料理教室など習い事をしたい。
- ・自主防災はあってないようなもの。
- ・伝統の踊り等、継承保存のため教育委員会等を通じ子どもたちに教えられないか。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・地域の集い（1回/月）
- ・あつたか集い（2回/月）
- ・援助員を通して自分たちも楽しみたいという思いができ、「ひまわり」が発足し、地区的イベント等を実施し始めている。
- ・ひまわりの会（1回/月）
- ・支え合いマップづくり → 色分け、避難場所の確認、責任者を決めた。
- ・芋煮会や月見会等、ひまわりの会を中心に地域で自主的に活動ができている。

●地域の現状（H28年現在）

- ・運動教室はしていないが、集まった時に体操や認知症予防体操をしている。
- ・伝統の踊りは小学校に教えに行って、合同発表などで発表している。地域の秋祭りでも子どもから、大人まで踊っている。
- ・トンネルの出入口や公園の美化活動をしている。春には地域清掃をした後、公園で花見をしている。
- ・自主防災は前回同様、あってないようなもの。

●今後の課題

- ・高齢者・独居・独身者が多く、祭りごとの準備ができなくなってきた。
- ・空き家が多い。
- ・集会所に倉庫が無いため、荷物の置き場所に困っている。
- ・いきいき百歳体操の内容が体力的に難しくなってきてている。
- ・参加者同士の相性。



☆うちわ踊り

～社会資源～

- | | |
|-----------|--------------------|
| ☆福万寺跡と椿姫像 | ☆金毘羅さん |
| ☆猫神様 | ☆秋祭り：太刀踊り
うちわ踊り |
| ☆三権屋遺跡 | ☆公園 |
| ☆江越地蔵 | ☆炭焼き |
| ☆石鎚宵祭り | ☆公衆トイレ |
| ☆ | などがあります。 |

桜がきれいに咲く公園を大切に、まとまりのある地域です。文化財が多く存在しています。

■ 芳井

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	31	
男	15	48.39%
女	16	51.61%
0～19歳	4	12.90%
20～64歳	19	61.29%
65歳以上	8	25.81%
世帯数(戸)	14	
独居高齢者数	6	
要介護・要支援者数	5	



平成28年8月31日		
人口(人)	30	
男	13	43.33%
女	17	56.67%
0～19歳	3	10.00%
20～64歳	18	60.00%
65歳以上	9	30.00%
世帯数(戸)	14	
独居高齢者数	6	
要介護・要支援者数	2	

●前回策定時の今後の課題

- ・あったか集い、地域の集い等の取り組みについて見直しをする。
- ・在宅で生活している65歳以上の人気が5名しかいないことから個別対応とする。
- ・行政職員がもっとボランティアに参加するべきである。
- ・介護について相談できるところが欲しい。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・あったか集い（2回/月）
- ・自主防災 → 放水訓練（どこまでホースが届くか等）

●地域の現状（H28年現在）

- ・高齢化のうえ、一人暮らしが多い。
- ・まとまりがなく、イベント、集まりの行事があっても集まりが少なく、活気がない。
- ・人と人とのコミュニケーションが取れない、集まる人は決まっている。
- ・秋祭り、農地水の作業、自主防災訓練等は行っているが、新たなことに取り組むことは難しい。

●今後の課題

- ・みんなが助け合い、定期的に集まって飲食したり、語り合える場を作りたい。
- ・あったか集いの開催について。
- ・地区の若い世代の意見はどうか不明。
- ・地区での交流が無い為、防災訓練はしているが不安がある。



☆へんろ小屋

～社会資源～

- ☆キシツツジ（村の花が多く生息）
 - ☆キャンプ場
 - ☆へんろ小屋
 - ☆公衆トイレ
 - ☆せがけさん
 - ☆秋祭り
- などがあります。

**自然豊かな地域です。
お遍路さんの接待の場を作り、交流している
地域です。**

■ 下長谷

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	213	
男	110	51.64%
女	103	48.36%
0～19歳	27	12.68%
20～64歳	101	47.42%
65歳以上	85	39.91%
世帯数(戸)	93	
独居高齢者数	22	
要介護・要支援者数	6	



平成28年8月31日		
人口(人)	193	
男	101	52.33%
女	92	47.67%
0～19歳	22	11.40%
20～64歳	87	45.08%
65歳以上	84	43.52%
世帯数(戸)	88	
独居高齢者数	24	
要介護・要支援者数	14	

●前回策定時の今後の課題

- ・高齢者事業の参加者が歩きでできているので、これからも維持していくようにいきいき百歳体操普及教室を実施する。
- ・地域の集い事業の協力者の後継者がない。
- ・太刀踊りが子どもに継承されていくのを継続してほしい。
- ・店がない、バスがない等今後の不安材料となる。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・支えあいマップづくり → 家族状況の書き込み、運転免許・要援護者の有無（色分け）
- ・一人暮らしの見守り・声かけ → あったか（見守り支援員）
- ・あったか集い（1回/月）
- ・地域の集い（1回/月）

●地域の現状（H28年現在）

- ・高齢化が進み、地域の集いやあったか集いの参加者も少しづつ減ってきている。
- ・女性中心で男性は集まらない。
- ・昼食が終わるとそれぞれ帰ることが多い。
- ・区長が防災関係の活動に力をいれている。

●今後の課題

- ・買い物が不安。
- ・ゴミステーションが離れているので近くに欲しい。
- ・村営の小さな車で週一日でも安く走らせて欲しい。
- ・何かするにしても難しいが、声かけすれば集まる。



☆太刀踊り

～社会資源～

- ☆農家喫茶・民宿 くろうさぎ
 - ☆あらふきさん
 - ☆大タブの木
 - ☆小ハ木様墓地
 - ☆久繁の墓
 - ☆岡ノ前遺跡
 - ☆嫗龍さん
 - ☆秋祭り：太刀踊り
 - ☆宮奈路遺跡
 - ☆公衆トイレ
 - ☆下長谷遺跡
 - ☆ししどうハウス
- などがあります。

**清流会、花の種まき、他のことも声かけて気
持ち良く参加。伝承文化にも親子で参加。
頑張っている地域です。**

■ 上下長谷

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	93	
男	45	48.39%
女	48	51.61%
0～19歳	7	7.53%
20～64歳	53	56.99%
65歳以上	33	35.48%
世帯数(戸)	45	
独居高齢者数	8	
要介護・要支援者数	8	



平成28年8月31日		
人口(人)	95	
男	47	49.47%
女	48	50.53%
0～19歳	13	13.68%
20～64歳	41	43.16%
65歳以上	41	43.16%
世帯数(戸)	44	
独居高齢者数	8	
要介護・要支援者数	5	

●前回策定時の今後の課題

- ・集会所から離れた集落で集う場所ができたので、健康相談についてはそこでも開催する。
- ・集会所を利用する人がいない。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・支えあいマップづくり → 世帯の色分け、緊急時の連絡先の確認・登録（区長、民生委員が保管）
- ・バイキングの開催。（毎月第3金曜日）
- ・敬老の日にお弁当を配る。
- ・あったか集い（1回/月）
- ・地域の集い（1回/月）

●地域の現状（H28年現在）

- ・高齢者の方がまだ農業、野菜作りをしている。
- ・月に一回バイキングは高齢者の方は喜んで来てくれているが、来ない人は全然来ない。
- ・今の生活に支障が無い人が多い。
- ・各集い等が同じ週に固まる時があり、連日の開催になると参加者はいない。

●今後の課題

- ・健康相談や健康体操をしているが、男性の参加者がいない。
- ・75歳以上の方が自動車の運転をしている。（他に移動手段がないため）
- ・あったか集い・地域の集い・健康相談の日程が詰まってくる。（日程の調整が必要）



☆バイキングの様子

～社会資源～

- ☆法泉寺
 - ☆神母さま
 - ☆ピヤクシンの古木
 - ☆亀伯道仙の碑
 - ☆逆修碑+拓本
 - ☆簡易郵便局
 - ☆秋祭り
 - ☆森林組合
- などがあります。

**冠婚葬祭ができる会場があり、月に1回バイキングを開催しています。
みんなで支え合う地域づくりを目指します。**

■ 上長谷

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	127	
男	65	51.18%
女	62	48.82%
0～19歳	14	11.02%
20～64歳	59	46.46%
65歳以上	54	42.52%
世帯数(戸)	54	
独居高齢者数	8	
要介護・要支援者数	8	



平成28年8月31日		
人口(人)	112	
男	57	50.89%
女	55	49.11%
0～19歳	9	8.04%
20～64歳	47	41.96%
65歳以上	56	50.00%
世帯数(戸)	52	
独居高齢者数	12	
要介護・要支援者数	10	

●前回策定時の今後の課題

- ・地域の集い事業の協力者の後継者がいない。利用者の高齢化による減少と、新たな利用者がいない。
- ・集会所を利用する人は決まっている。他に活用の工夫ができるか。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・地域の集い（2回/月）
- ・あつたか集い（1回/月）
- ・環境保全会 → 年間20回程度草刈り、花植え、水路掃除等の作業を行っている。
- ・やまびこカフェへの参加 → フレッシュ東部
- ・支え合いマップづくり → 世帯の色分け、承諾者のみかかりつけ病院、勤務先等を記載
- ・あじさい祭を部落全体の祭りとして毎年開催できるようになってきた。

●地域の現状（H28年現在）

- ・あじさい祭りを毎年開催、秋祭りも太刀踊りや餅なげなどにぎやかにできている。
- ・隣近所仲良くして、時々集まって話をしたりしている。
- ・援助員が世代交代し、参加者も変化した。
- ・健康相談と集いとの同時開催が難しい（日程の変更多い）、別日開催では参加者が少ない。
- ・地区の集いが月2回の開催となり、あったか集いの開催が減った。
- ・80歳を超えた夫婦が多い。（高齢世帯が多い）

●今後の課題

- ・高齢者が多くなり、入院などする人も増えてきている。
- ・家の中にいて、あまり姿を見ない人もいる。



☆あじさい祭り

～社会資源～

- | | |
|------------------|-----------|
| ☆農家食堂・民宿 風車 | ☆上長谷城跡 |
| ☆青空屋 | ☆真念道標十拓本 |
| ☆農家レストラン・民宿 今ちゃん | ☆観音さま |
| ☆観音渕 | ☆武元兵庫の墓 |
| ☆あじさい祭り愛好会 | ☆秋祭り：太刀踊り |
| ☆地蔵峠の地蔵さま | |
| ☆公衆トイレ | |
- などがあります。

集会所周りの風景「あじさい街道」や「観音ぶち」などきれいな地域です。
お遍路さんのバスツアーでは景色がきれいだからとバスを降りて歩いている姿も見かけます。

■ 狼内

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	60	
男	26	43.33%
女	34	56.67%
0～19歳	2	3.33%
20～64歳	31	51.67%
65歳以上	27	45.00%
世帯数(戸)	28	
独居高齢者数	6	
要介護・要支援者数	6	



平成28年8月31日		
人口(人)	56	
男	25	44.64%
女	31	55.36%
0～19歳	2	3.57%
20～64歳	22	39.29%
65歳以上	32	57.14%
世帯数(戸)	27	
独居高齢者数	8	
要介護・要支援者数	9	

●前回策定時の今後の課題

- ・囲い切りや草刈りなど安価でしてほしい。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・秋祭りの開催。
- ・一斉清掃、花植えの実施。
- ・あつたか集い（2回/月） → あらたな協力者が得られた。



☆防災講習の様子

●地域の現状（H28年現在）

- ・住民の半数以上が65歳以上。
- ・あったか集いの利用者が減少している。
- ・集会所への集まりは定着してきたが、集まり始めたときより参加者は減ってきてている。
- ・若い世代が少ない。
- ・地域住民の協力、まとまりが希薄に感じる。
- ・あったか集いの参加者の固定化。

●今後の課題

- ・支え合いマップづくり。
- ・高齢者の買い物、通院について考える必要がある。
- ・集会所の利用者が限られている、利用回数も少ない。



☆防災マップづくり

～社会資源～

- | | |
|---------------|------------|
| ☆農家食堂 つの | ☆学法寺跡とお月さん |
| ☆みみごさん | ☆狼内五輪塔 |
| ☆西竹寺の版木（拓本だけ） | ☆御靈神社 |
| ☆狼内城跡 | ☆藤権現 |
| などがあります。 | |

高齢者が多いが、畠仕事などを楽しんでやっている人が多い地域です。村内では最大の五輪塔があり、また、御靈神社は周りに椿が咲いておりきれいに整備されています。
成山からの歩き遍路道があり、よく行き来しています。

■ 成山

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	38	
男	17	44.74%
女	21	55.26%
0～19歳	7	18.42%
20～64歳	16	42.11%
65歳以上	15	39.47%
世帯数(戸)	16	
独居高齢者数	4	
要介護・要支援者数	2	



平成28年8月31日		
人口(人)	39	
男	19	48.72%
女	20	51.28%
0～19歳	9	23.08%
20～64歳	13	33.33%
65歳以上	17	43.59%
世帯数(戸)	14	
独居高齢者数	2	
要介護・要支援者数	2	

●前回策定時の今後の課題

- ・地域住民の助け合う気持ちがなくなってきた。
- ・一部の人が部落の行事に参加しない。
- ・若者がいないため、これから先の農地の活用や管理について困る。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・あったか集い（1回/月）
- ・地域の集い（1回/月）
- ・花植え → 若あゆ会が中心で実施（2回/年）
- ・ボランティア的な取り組み → お遍路さんへお茶を出したり、宿泊できるように協力。
遍路小屋の維持管理も行っている。
- ・訪問・見守り → 区長、民生委員が実施
- ・やまびこカフェへの参加 → チームなでしこ

●地域の現状（H28年現在）

- ・昔から引き継がれている行事は地域の人たちができるだけ参加し、継続されている。
- ・村のイベントに対して地域全員に声かけをし、餅つきを実施できた。継続していく。
- ・男性の参加者が見られるようになった。

●今後の課題

- ・地震対策に避難訓練が必要。
- ・現状の継続。
- ・前回策定時の課題があり、地域全員で活動するようことがあれば実施したい。



☆チームなでしこ



～社会資源～
☆いんげんさん ☆おいせこさん
☆へんろ道跡 ☆秋祭り
などがあります。

遍路道があり、接待を盛んにしている地域です。地域の人をみならって子ども達が元気にあいさつをしている地域です。
集落活動センター事業で「チームなでしこ」を立ち上げました。

■ 星ヶ丘

地域データ

平成23年8月31日		
人口(人)	101	
男	49	48.51%
女	52	51.49%
0～19歳	43	42.57%
20～64歳	51	50.50%
65歳以上	7	6.93%
世帯数(戸)	31	
独居高齢者数	0	
要介護・要支援者数	0	



平成28年8月31日		
人口(人)	91	
男	47	51.65%
女	44	48.35%
0～19歳	28	30.77%
20～64歳	51	56.04%
65歳以上	12	13.19%
世帯数(戸)	28	
独居高齢者数	2	
要介護・要支援者数		

●前回策定時の今後の課題

- ・地区集会所が狭く、避難場所としては適していない。
- ・備品の使用方法、光熱費等の負担に苦慮している。
- ・売れていない分譲地の管理をしてほしい。

●第1期計画からやってきたこと、変化してきたこと

- ・支えあいマップづくり → 世帯、避難場所、班分け、要援護者の確認
- ・間伐材を使っての薪づくり → H28.3 に実施できた。
- ・あったか集い（1回/月）

●地域の現状（H28年現在）

- ・ラグビー場の使用頻度が増え、親子を多く見かけるようになってきた。（県外のスポーツクラブが使用。）
- ・住宅地でありながらここ数年新しい住宅が増えない。
- ・子どもたちも成長し、村外に進学及び就職し、団地の人口が減っている。
- ・地区でのイベント的なことへの支援を行っているが、現在は減ってきている。
- ・日中に自宅にいる住民は少なく、相談・訪問機能について早急に必要とされていない。
- ・あったか集いの開催はしているが、参加者はほぼいないのが現状。（平成29年度より宮ノ川と一緒に開催）

●今後の課題

- ・住宅や地区人口を増やすために、ラグビー場の駐車場に三原に住むメリットなどを表示してみる。
- ・村営住宅を建築し、平田へ勤務する人に利用して頂き人口の増加を図る。



☆星ヶ丘公園のヒメノボタン

～社会資源～

- | | |
|---------------|--------|
| ☆四万十みはら菜園 | ☆星ヶ丘公園 |
| ☆特別養護老人ホーム星ヶ丘 | ☆農業公社 |
| ☆分譲地 | ☆ラグビー場 |
| ☆グラウンドゴルフ場 | ☆公衆トイレ |
| などがあります。 | |

若い世代が多く、イベント等への参加を盛んに行い、団結力がある地域です。

第 6 章

計画の推進体制

1. それぞれの役割

誰もが住みなれた地域で、心豊かに安心していきいきと暮らせるよう、住民・社会福祉協議会そして行政がそれぞれの担う役割を踏まえ、互いに連携し、協働しながら、地域社会全体で本計画の理念である「あったかいきずなをつなぐ三原村」の実現に向けた取り組みを進めていくことが重要です。そのためには、それぞれの実施主体に以下のような役割が求められています。

住民の役割

住民には、地域福祉の担い手になることが期待されています。村民一人ひとりが自分にできることは自分でという意識をもつとともに、地域社会の一員として、福祉に対する意識を高め、個人が持っている知識や技術を活かし、区長やボランティアなどの地域活動に積極的に参加することが求められています。また、行政・社会福祉協議会では日常生活に対し、目が届かないところも多くあり、住民一人ひとりが地域のことに関心を持ち、ニーズや生活課題を把握し、その解決に向けて知恵を出し合い、協力し、具体的な支え合い活動に結びつけていくことが重要です。そのためには、日ごろからのあいさつや自然な声かけを行い、隣近所とのつきあいを深めておくことが大切です。

社会福祉協議会の役割

平成24年3月に『あったかいきずなをつなぐ三原村』を基本理念とし策定された三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画において社会福祉協議会では、地域福祉活動推進のコーディネーターとして各種関係団体間のネットワークづくりやお互いが支え合う仕組みづくりに取り組んできました。平成29年度に引き継ぐ第2期三原村地域福祉計画・三原村地域福祉活動計画では、前回浮上した課題にも着目し、社会福祉協議会として担う役割として、地域のつながり・助け合う支え合う仕組みを現実のものとなるよう住民に寄り添えるボランティア活動の参加促進、地域福祉活動推進を強化し「誰もがその人らしく住み慣れた地域で安心して暮らせる」ように関係機関と連携して取り組んでいきます。

村の役割

村は、地域福祉の充実に向け、住民・社会福祉協議会・関係機関等との協働で福祉施策を総合的に推進していきます。地域住民や関係団体等の自主的な地域福祉活動を支援し、地域の実態や住民ニーズの把握につとめ、福祉に関する相談体制や情報提供の充実を図ります。

地区の役割

住民が主体となって課題を解決していくためには、地区の特色を活かし、それぞれの地区で福祉活動に取り組んでいくことが大切です。本村では14地区を単位として地域の実態を踏まえた地区別の活動計画を策定し、取り組みを進めています。

地区別の活動計画は、より身近な地域で住民が主体となってきめ細やかな活動ができるように取りまとめたものです。各地区で住民同士が課題を話し合い、取り組みを考え、実行し、より良い地域を作っていくことが地域福祉を進めていくうえで重要になります。

2. 計画の進捗管理と検証体制

本計画を効果的かつ継続的に推進していくため「三原村地域福祉計画・活動計画推進委員会」を設置し、関係機関と連携しながら、計画の進捗状況を把握し、進捗状況の評価と見直しを年1回程度行っています。

資料編

【 目 次 】

三原村地域福祉計画策定委員会設置要綱	・・・・・	I
三原村地域福祉計画策定委員会委員名簿	・・・・・	II
アンケート調査結果	・・・・・	III
社会福祉協議会による聞き取り結果	・・・・・	XIV

三原村地域福祉計画策定委員会設置要綱
(平成28年3月16日 要綱第7号)

(設置)

第1条 社会福祉法(昭和26年法律第45号)第107条に基づき、三原村地域福祉計画(以下「地域福祉計画」という。)の策定に当たり、本村における地域福祉の推進について、広く住民の意見を聴取し計画を策定するため、三原村地域福祉計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は次のとおりとする。

- (1) 地域福祉計画の策定に関すること。
- (2) その他地域福祉計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員14人以内をもって組織する。

- 2 委員は、学識経験者その他地域福祉に関し、見識を有する者のうちから村長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、地域福祉計画の策定が完了するまでとする。ただし、欠員が生じた場合の補充委員の任期は前任者の残任期間とする。

(役員)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長および副委員長は、委員の互選によって定める。
- 3 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、または委員長が欠けたときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴取し、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、住民課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、村長が別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

三原村地域福祉計画策定委員会委員名簿

役職	氏名	備考
委員長	大塚 昭	柚ノ木地区
副委員長	岡本 君子	芳井地区
委員	宮川 園子	下切地区
	山川 政幸	亀ノ川地区
	大倉 律子	広野地区
	金澤 京子	宮ノ川地区
	杉本 幸子	来栖野地区
	金子 三都子	皆尾地区
	大塚 光代	下長谷地区
	田村 和子	上下長谷地区
	小橋 益子	上長谷地区
	津野 美也	狼内地区
	池上 明美	成山地区
	松下 悅子	星ヶ丘地区
事務局	矢野 龍幸	住民課長
	加用 慎吾	住民福祉係長
	谷本 純子	住民福祉支援係長
	細川 慧宇	住民福祉担当
	岡本 貢	社会福祉協議会事務局長
	市原 美由紀	社会福祉協議会
	山中 未来	社会福祉協議会
	芝岡 美枝	幡多福祉保健所
	宮崎 真帆	幡多福祉保健所

3. アンケートの結果

問1 あなたの性別を教えてください。 (○は1つ)

性別	男	女	無回答	合計
人数	37	31	0	68
割合	54.4%	45.6%	0%	100%

問2 あなたの年齢を教えてください。

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
人数	0	4	23	35	1	0	63
割合	0.0%	5.9%	33.8%	51.5%	8.8%	0.0%	100.0%

問3 あなたが現在お住まいの地域に○をつけてください。(○は1つ)

部落名	下切	亀ノ川	広野	柚ノ木	宮ノ川	来栖野	皆尾	芳井
人数	2	3	2	19	12	2	3	1
割合	2.9%	4.4%	2.9%	27.9%	17.6%	2.9%	4.4%	1.5%

下長谷	上下長谷	上長谷	狼内	成山	星ヶ丘	無回答	合計
9	5	4	0	0	6	0	68
13.2%	7.4%	5.9%	0.0%	0.0%	8.8%	0.0%	100.0%

問4 あなたの世帯構成を教えてください。(○は1つ)

世帯構成	ひとり世帯	夫婦のみの世帯	二世代世帯	三世代世帯	その他	無回答	合計
人数	1	10	46	10	1	0	68
割合	1.5%	14.7%	67.6%	14.7%	1.5%	0.0%	100.0%

また、次のような方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

	65歳以上の方	介護を必要とする方	身体・知的・精神などの障害のある方	合計
人数	16	1	6	23
割合	69.6%	4.3%	26.1%	100.0%

問5 あなたは、近所の人とどのようなお付き合いをしていますか。(○は1つ)

	仲が良くお互いの家を行き来する	合えば立ち話をする	顔を合わせれば挨拶をする	顔は知っているが声をかけることはない
人数	5	23	39	0
割合	7.4%	33.8%	57.4%	0.0%

ほとんど顔も知らない	近所づきあいはない	その他	無回答	合計
1	0	0	0	68
1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問6 家の周囲5軒くらいに住んでいる人の顔と名前がわかりますか。(○は1つ)

	全て把握している	顔は知っているが名前は知らない	ほとんど知らない	その他	合計
人数	50	13	5	0	68
割合	73.5%	19.1%	7.4%	0.0%	100.0%

問7 あなたは、近所の人に頼まれたとき、次のような手伝いをしようと思いませんか。

(あてはまるものすべてに○)

	人数	割合
ごみをだす	45	66.2%
買い物をする	22	32.4%
食事を作る	4	5.9%
話し相手	34	50.0%
病院等への送迎	19	27.9%
散歩や外出時に同行	10	14.7%
草刈りや庭掃除	15	22.1%
部屋の掃除や片付け	2	2.9%
声かけや安否確認	45	66.2%
子どもを預かる	11	16.2%
災害時の助け	49	72.1%
その他	3	4.4%

問8 あなたは勤務日以外の休みの日だと、休みの日は家にいますか。(○は1つ)

	ほとんどいる	時々いる	ほとんどいない	無回答	合計
人数	22	33	12	0	67
割合	32.8%	49.3%	17.9%	0.0%	100.0%

問9 あなたは過去1年間に、地区活動や地域の集まりに参加したことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

	一斉清掃	スポーツ大会	三原祭 清流まつり	どぶろく 農林文化祭	青年団活動	婦人会活動
人数	53	2	56	49	3	0
割合	77.9%	2.9%	82.4%	72.1%	4.4%	0.0%

保・小中学校 協力活動・行事	地域の活動	社会や地域で の奉仕活動	集落活動センター(カ フェの利用、イベントへ の参加)	その他
45	36	15	31	0
66.2%	52.9%	22.1%	45.6%	0

問10 あなたは問9のような社会奉仕活動や地域活動に参加することをどう思いますか。(○は1つ)

	今後も続けたい	できることなら参加したくない	無回答	合計
人数	60	7	0	67
割合	89.6%	10.4%	0.0%	100.0%

問11 問10で「できることなら参加したくない」と答えた方は、どのような理由からでしょうか。(○は1つ)

	家事・介護・育児など、他に やることがあって忙しいから	行事や活動の内容に興味や関心 がなく、参加したいと思わない	自分の趣味や余暇 活動を優先したい	付き合いが わざわざしい
人数	7	0	0	0
割合	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

体調不良	その他	合計
0	0	7
0.0%	0.0%	100.0%

問12 あなたが「地域福祉」からイメージするものを、次の中から当てはまるものすべてに○をつけてください。

	人数	割合
高齢者、障害者の生きがいづくり	41	60.3%
高齢者の福祉・介護サービス	48	70.6%
障害者の福祉・介護サービス	29	42.6%
働き盛りの健康づくり	13	19.1%
生活保護	8	11.8%
生活困窮者の支援	22	32.4%
安全・安心な出産環境	9	13.2%
保育所、小中学校の充実	30	44.1%
青少年対策	4	5.9%
ひとり親家庭の自立支援	10	14.7%
少子化対策	16	23.5%
災害時の避難体制	31	45.6%
住民の助け合い、支え合い	40	58.8%
具体的にイメージがわからない	4	5.9%
その他	0	0.0%

問13 あなたの親に介護が必要になった場合、あなたはどうのようにしたいとお考えですか。

(○は1つ)

	人数	割合
家族だけで介護をする	0	0.0%
家族が中心となって介護をするが、足りないところは福祉サービスを利用する	31	45.6%
積極的に福祉サービスを利用して在宅で介護をする	23	33.8%
できれば福祉施設で介護してもらいたい	14	20.6%
その他	0	0.0%
合 計	68	100.0%

問14 あなたは心配ごとや悩みを聞いてほしい時、だれに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

	人数	割合
家族	64	94.1%
親戚	10	14.7%
友人・知人	44	64.7%
近所の人	4	5.9%
区長・地域の役員	2	2.9%
民生委員・児童委員	6	8.8%
人権擁護委員	0	0.0%
ホームヘルパー	0	0.0%
保健師	4	5.9%
三原村役場	1	1.5%
三原村社会福祉協議会	1	1.5%
学校の先生・保育園の先生	3	4.4%
医師	5	7.4%
相談する人がいない	0	0.0%
相談しない(自分で解決する)	1	1.5%
その他	0	0.0%

問15 現在、困っていること、不安に思っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

	人数	割合
健康・病気について	15	22.1%
介護について	5	7.4%
家族関係について	2	2.9%
近所づきあいについて	4	5.9%
経済的なことについて	10	14.7%
子育てについて	12	17.6%
教育について	8	11.8%
住まいについて	8	11.8%
食事や身の回りのことについて	0	0.0%
交通について	1	1.5%
買い物について	2	2.9%
仕事について	13	19.1%
防災について	11	16.2%
特にない	7	10.3%
その他	0	0.0%

問16 あなたは、将来、不安に思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

	人数	割合
健康・病気について	24	35.3%
介護について	28	41.2%
家族関係について	14	20.6%
近所づきあいについて	11	16.2%
経済的なことについて	17	25.0%
子育てについて	19	27.9%
教育について	17	25.0%
住まいについて	15	22.1%
食事や身の回りのことについて	8	11.8%
交通について	10	14.7%
買い物について	11	16.2%
仕事について	25	36.8%
防災について	21	30.9%
特にない	17	25.0%
その他	6	8.8%

問17 あなたは、地域のために何かできること、またはしてみたいことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

	人数	割合
買い物等の支援	13	19.1%
病院等への送迎	6	8.8%
簡単な家事の手伝い	20	29.4%
書類の記入や代理申請	6	8.8%
独居の方への声掛け	23	33.8%
きれいな村づくり	19	27.9%
子どもの見守り	23	33.8%
集落活動センターでのイベントの参加	11	16.2%
その他	7	10.3%

問18 今後、誰もが安心して暮らせる三原村にするために、ご意見、ご提案などがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・ 村での行事等知りたいが、四世代で住んでいるのに広報等のお知らせが1部しか来ない為、全然わからず参加できない。
 - ・ 子育て支援センターはあるが、土日祝日はやっていない為、仕事をしていると参加できず、他の家庭との交流もない。
 - ・ 地域に婦人部もあるようだが、活動が平日昼間がほとんどであり、同世代の人もいないので参加できないし、参加する気にならない。
- 何かをしてあげようと思う程度と、していただく側の思いが違うと問題が起きる(していただく側の思いの方が大の場合など)。何かをしてあげた時、問題が発生した場合(ケガをさせてしまった等)の事を考えると何もしない方が良いと思っている人が多いと思う。責任を明確にしないといけないのでは。
- ・ 中村方面、宿毛方面、大月方面、土佐清水方面への交通に時間がかかる。ちょうど真ん中に三原があるため、バイパスを整備すれば人口も増え、村も活性化すると思う。
- 選挙が行われる場合、事前に市町村からハガキが送られ、投票日に持参、選挙管理員の方にチェックを受けて初めて投票ができるものと思っていたが、三原は違った。会場にて顔パスで投票を行い、投票が終わると粗品をもらって帰るという方式で変だと思った。粗品の費用でハガキ案内をしてもらいたい。それが無理ならば、村外から来た人に風習を教えることが必要なのでは。
- ・ 不安を少しでも取り除けるような、相談できるところ、心の拠り所をつくる。
 - ・ 将来に不安を与えないような、環境づくり、仲間づくりを支える。
 - ・ やりがい、生きがいの充実。
 - ・ 住居の充実。医療の充実、移動手段の確保、住民同士の繋がり
 - ・ 各関係機関がもう少し情報交換をして連携した村づくりをした方が良いのでは。
 - ・ 現在はどの機関も活動が別々なので住民に活動が浸透しにくい。(理解しにくい)
 - ・ 最近、空き家などを貸し出して村外の人に住んでもらったりしているのは、とてもいいと思う。若い人が働ける場がもっとあると嬉しい。
 - ・ 村に買い物や食事ができるところがあつたらなと思います。
 - ・ 安心して暮らせるとは別の話かもしれないが、若者にも魅力がある定住できる場所になるよう願っています。
 - ・ 高齢者が孤立しないように、1人暮らしの方へイベントの誘いなど心がけていただければと思います。
 - ・ 現在、フルタイムで仕事をしているが、定時で帰宅することはほとんど無い為、子どもの保育園の迎えや、小学校が終わつた後の子どもの面倒を見られるか心配。有料で構わないので、最長20時ごろまで子どもを預かってもらえる施設があれば、本当に助かります。

- ・ 未就学児が遊べるところがない為、公園が欲しい、若しくは保育園の園庭を開放してほしい。
- ・ 道路の見えにくい場所でのミラーが少ない為、設置場所を増やしてほしい。
- ・ 小中学校の周りが暗いので、街灯を増やしてほしい。
- ・ 証明や提出に書類のコピーがいるので、自由に使えるコピー機がほしい。
- ・ 夏休みなど、共働きで子どもを一人にしないといけない時とでも困るので、学童がほしい。
- ・ 三原には独特の団結感があり、とても頼もしいと共に、よそ者を寄せ付けない冷たさも感じてはじめない。
- ・ 一度仲よくなれば暮らしやすいのかもしれないが、人見知りには辛い。
- ・ 高齢化率の上昇に伴い、若い世代が減少している。福祉を支えるためには、若者が定住し、援助が行える体制づくりが必要と思われます。
- ・ 健康診断はあるが、乳がん、その他健診を若い年代も受けられるようになってもらいたい。
- ・ 仕事をしている為、子どもが病気になったら見てもらえないでしんどい。
- ・ 平日や、夜の家に誰もいない時の子どもの預かりをしてくれる施設がほしい。
- ・ いろんな勉強会があれば参加したい。
- ・ 子育てができる、収入が得られる就業場所が少ない。
- ・ 通院に付き添いが必要なため、介護が必要になった場合、仕事が続けられるか心配。
- ・ 塾がないこと、児童が少なく競い合う環境がないことで、学力が向上するか心配。

学生向けアンケート結果(中学生)

男	女	計
19	10	29
65.5%	34.5%	

問1 良い所、自慢できるところを教えてください。

- ・ 自然が豊か
- ・ 近所の人があいさつをしてくれるところ
- ・ 近所の人が優しい
- ・ 近所づきあいが良く、みんなが優しい
- ・ 空気がきれい
- ・ 川がきれい
- ・ 地域が一体になっているところ
- ・ 地域の人と関わる行事がたくさんあること
- ・ 団地の人の仲が良いところ
- ・ 山がきれい
- ・ おだやかなところ
- ・ 近所の人が優しいので安心して会話ができる
- ・ みんな笑顔でいること
- ・ 部活動ができる環境が整っている
- ・ 下校時に近所の人が温かい目で見守ってくれている
- ・ じまんやがある
- ・ ゴミがほとんどない
- ・ 特産品が多い
- ・ 近所の人がおそらくわけをしてくれる
- ・ 食べ物がおいしい
- ・ 高齢者が元気

問2 困っていることや不安に思っていることがありますか

- ・ 電灯が少ない。夜帰り道が暗い
- ・ 特にない
- ・ 草が生えていて足元が見えないところが多い。雑草が目立つ
- ・ ポイ捨てがある
- ・ ガードレールがないところ
- ・ 山が近いので地震が来たときに逃げられるか心配
- ・ 動物の死体がたくさんある
- ・ 信号がほとんどない
- ・ 店があまりない
- ・ 工場を作るよります、街灯をつけて欲しい

問3 あなたは近所の大人とどのような付き合いをしていますか。

よく話をする	たまに話をする	あいさつ程度はする	全く話をしない	その他	無回答	計
10	7	8	3	0	1	29
34.5%	24.1%	27.6%	10.3%	0.0%	3.4%	100.0%

問4 将来三原村に住みたいですか。

・住みたい 6人

楽しいから

自然が多いから

周りの人が温かくて住みやすいから

犯罪がなく治安が良い。近所の人が優しい

・住みたくない 6人

田舎。職が限られているから
やりたい仕事が三原にはないから
他に住みたいところがある
トラブルが良くあるから

・悩んでいる 16人

三原は本当に良い所で安心できるので住み続けたいけど、仕事に就くのが厳しいと思う

海が無いので津波の心配はないので安心できるけど、店が少ないのが不満

仕事や大学などで家を離れるかもしれないから
スーパーが遠く店があまりないから
他のところが遠いけど自然が多い所が好きだから
都会の方が仕事はあるけど三原が好きだから
三原に残りたいけど食べていけるか心配
もっと便利になれば住みたい
地元だから親しみがあって住みたいけど、新しいことを学んだりしたい気持ちもあるから

・無回答 1人

学生向けアンケート結果(高校生)

男	女	計
10	5	15
66.7%	33.3%	

問1 良い所、自慢できるところを教えてください。

- ・ 自然がたくさんある
- ・ 地域の人が優しい
- ・ 食べ物がおいしい
- ・ 近所の人を含め多くの人があいさつをしてくれる
- ・ 独特の特産品がある
- ・ 学校の制度がほかの学校に比べて良く、勉強になる
- ・ 祭りは県外からくる人もいるほどすごい
- ・ 高校の先生に褒められるほど、態度等の教え方が上手
- ・ どぶろく
- ・ 道路が整備されている
- ・ ヒメノボタンの鑑賞イベントがあるところ
- ・ 人ととの距離が近い
- ・ 素直な子どもが多い
- ・ 高齢者が元気
- ・ 伝統の行事(太刀踊り等)が今も続いている
- ・ 夜が静か

問2 困っていることや不安に思っていることがありますか

- ・ 街灯が少なく、夜が怖い
- ・ 特にない
- ・ 仕事がない
- ・ お店が少ない
- ・ インターネットに光が欲しい
- ・ コンビニがない
- ・ 中学校の生徒数の増減の差が心配

問3 あなたは近所の大人とどのような付き合いをしていますか。

よく話をする	たまに話をする	あいさつ程度はする	全く話をしない	その他	無回答	計
3	7	5	0	0	0	15
20.0%	46.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1

問4 将来三原村に住みたいですか。

・住みたい 6人

自然がいっぱいあるから

地域活性化の役に立ちたい

自分にとって故郷だから、地域の役に立ちたい

静かで昼寝が快適、季節が変わってくるのが良くわかる

・住みたくない 0人

・悩んでいる 9人

進路によって変わってくるため

住みたい気持ちはあるけど、仕事がないから悩んでいる

職場がないから

三原を出て仕事をしたいけど、三原が大好きで居たい気持ちもあり悩んでいる

最終的には戻ってきていいけど、若いうちは都会に住みたい

進路によって変わるけど、三原の近くに居たい

働き口がないから

進路によって変わってくる

・無回答 0人

社会福祉協議会による聞き取り結果

★聞き取り人数：149人

趣味・生きがいに関すること

内 容		
1	・集い（サロン・あったか）	31
2	・ひまわりの会	2
3	・フレッシュ東部	1
4	・上下長谷（体操）	1
5	・内職、仕事	2
6	・野菜づくり等（畑）	28
7	・花づくり	7
8	・硯、漬け物づくり	1
9	・読書	1
10	・歌	4
11	・踊り	4
12	・カラオケ	4
13	・テレビ	6
14	・映画	1
15	・カメラ	1
16	・旅行	2
17	・登山	1
18	・ゴルフ	3
19	・グランドゴルフ	1
20	・テニス	1
21	・プール	1
22	・メダカ、金魚	4
23	・釣り	1
24	・孫関係	7
25	・飲むこと（アルコール）	5
26	・通所が楽しい	3
27	・クリスチャン、創価学会	2
28	・パズル	1
29	・パッチワーク	1
30	・フラワー教室	1
31	・絵手紙	1
32	・生け花	2
33	・編み物、小袋づくり	2
34	・大正琴	1
35	・麻雀	1
36	・喫茶店でコーヒー	2
37	・娘に食事につれていってもらうこと	1
38	・動物	1
39	・ボランティア	1
40	・洗濯、掃除	1

不安・困っていることなど

	内 容
1	・車の免許が無くなった時
2	・ゴミステーションが遠い等
3	・草刈りや杉廻いの管理が出来ない
4	・夫が認知症で困っている。
5	・自分の健康面（現在、将来的に）
6	・バスの瓶を増やして欲しい
7	・考え方がない
8	・年金生活で精一杯やっている。
9	・経済的にもなんとか収入を得て生活できているので。
10	・免許もないが、特にない。
11	・今は元気なので考えても仕方ないので。
12	・家と家の間の川が草で詰まって誰も助けてくれない。
13	・今は分からぬ。
14	・旦那が居るから大丈夫。
15	・今のところ元気、子供も孫もみんな村内にいるので。
16	・旦那さんの介護サービス等を預ける事業所がない。（自分から見てサービス内容に納得できない）
17	・地域の住民の中に、介護をしている人の大変さを理解できず、物事を考えず発言する人がいる。
18	・今現在体をこわしているので
19	・家周辺の管理が経済的に出来ない、家の天井板が落ちかけている、張り替えたいが。
20	・一人暮らしなので、老後が不安。
21	・一人は、何辺に不安。
22	・一人暮らし、草刈り、移動販売、配達があれば。
23	・一人暮らしなので、健康面で不安を感じる。
24	・一人になったときに、地域の皆さんにお世話にならないといけないこと。（社協含む）
25	・子供達が帰ってこない。（一人ぼっちの生活）
26	・何らかの形で今の夫婦が一人になったときにどうなるかが不安。
27	・台風の時一人なので怖かった。
28	・一人の生活が寂しい。
29	・今は特にないが、生きるほどいかんとの思い。
30	・大雨が降って田と屋敷に水があがってくる。これまで区長さんにもお願いしてきたが対応してもらえない。
31	・自分の力で出来る限り頑張っていきたい。（畠仕事など）
32	・隣の行動が気になる。（見守り等環境を良くして欲しい）
33	・地域の人とつき合いがいやになって来ている、行事にも参加しない。
34	・近所の人たちがよくしてくれているから特にない。
35	・村の行事等に民生委員が参加していない。
36	・地区に村外から入ってきて知らない人がいる。
37	・最近地元でお葬式をしなくなった。
38	・車の運転の範囲（村内）、嫁が居るから頼む。
39	・今は、車の免許があるが、野菜づくり、花づくりが出来なくなったとき。
40	・お風呂に手すりがなくシャワー浴ですませている。

41	・台風に時、裏山の水が大量に流れてくる事。
42	・ときがいない。肝臓病で、あまり食べるものがない。
43	・娘さんが近くにいて助けてくれているが、ずっと一緒に生活しているわけじゃないので食事など大変になって
44	・ボランティア活動をしたい。
45	・息子夫婦に迷惑を掛けないか、それだけがきがかり。
46	・息子が嫁さんをもらわないこと。
47	・旦那はいるが、使えない。（畑仕事なども一人でやらなければならない）
48	・近所で飼っている、猫の糞害等。
49	・人に迷惑を掛けないように。車の事故を起こさないように。（いつまで乗れるか）
50	・車に乗るのがいやになってきたが免許が無くなったら買い物、通院に困る。（今のバスは不便）
51	・高齢化のため、部落会にも行けない。
52	・91歳の姉を連れているが、自分も高齢者となっているのでいつまで世話が出来るか不安。
53	・移動手段は、ほとんど姪がしてくれているが気を遣わないといけない。
54	・食材の確保に悩んでいる。
55	・集会所の玄関の中に手すりが無く歩きづらい。
56	・部落の出約など（草刈りなど）年齢と共に大変になってきた。
57	・部落会などにもっと村や福祉関係の人が入ってくれたら、要望も出しやすい。部落だけで話すのではなかなか
58	・年金をもっともらいたい。
59	・買い物や通院に困っている。
60	・車の免許があるまでは、三原で生活するつもり。
61	・裏山のしいの木が大きくなって隣の家の屋根に迷惑をかけてしまいそうなので伐採して欲しい。
62	・高齢化により出てくる人もだいたい年寄り。かわりに草刈りなど刈ってくれる団体などはつくれないものか。
63	・成るようにしか成らない。
64	・農業構造改善センターの多目的ホールを開放して欲しい。
65	・集いの頻度が長い（回数を増やして欲しい）。